

安曇野市の埋蔵文化財第24集

令和2年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書



2022. 3

安曇野市教育委員会

安曇野市の埋蔵文化財第24集

Annual Report of
Buried Cultural Property
in Azumino City
April, 2020 - March, 2021

令和2年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2022.3

安曇野市教育委員会

表紙写真 明科遺跡群本町遺跡出土土師器壺
裏表紙写真 明科遺跡群本町遺跡出土短刀

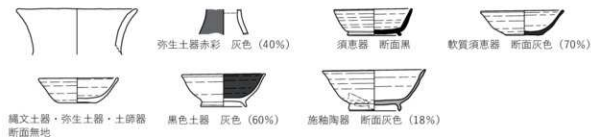
例言

- 1 本書は、長野県安曇野市で令和2年度（2020年4月1日～2021年3月31日）に実施した埋蔵文化財保護事業及び長野県史跡多田加助宅跡の現状変更等にかかる調査の報告書である。
- 2 本書の編集は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が行った。執筆は土屋和章・白居直之が担当し、中谷高志が統括した。
- 3 本書で使用した主な引用・参考文献は、巻末に一括して掲載した。
- 4 本書掲載の調査に関する出土遺物及び事務書類、記録類は安曇野市教育委員会が保管している。

凡例

- 1 遺物の法量表示について、観察表中では次のように記載した。
口径等の「実／復」欄 実：残存箇所を計測した場合 復：図上復元した場合
器高の「完／残」欄 完：完形資料を計測した場合 残：残存高を計測した場合

- 2 本書実測図で、遺物は次の基準で表現した。また、縮尺は各図に示した。



- 3 土器の記載では、器形について「形土器」の表記を省略した。
例 甕形土器：甕 高環形土器：高環
- 4 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帖」に準じた。
- 5 本書では、平成17年（2005）10月1日の町村合併より前の旧郡名・旧町村名について「旧」を省略し、「東筑摩郡」、「明科町」のように表記した。
- 6 本書掲載の地形図は個別の記載のない場合、安曇野市都市計画基本図（1/2,500）を基図とし、調製したものである。
- 7 文献引用等に際し、各機関の名称を以下のように省略した。
教育委員会：教委 編集委員会：編集委

目次

例言・凡例

目次・挿図目次・挿表目次

第1章 令和2年度埋蔵文化財保護事業	1
1 埋蔵文化財保護事業の概要	1
第2章 試掘調査	13
1 明科遺跡群県町遺跡	13
2 等々力町巾巾下遺跡	16
3 明科遺跡群本町遺跡・明科遺跡群龍門淵遺跡	18
4 明科遺跡群栄町遺跡	21
5 明科遺跡群明科庵寺	24
6 明科遺跡群県町遺跡	28
7 南松原遺跡	31
8 潮遺跡群潮神明宮前遺跡	34
9 潮遺跡群潮神明宮前遺跡	38
10 八ツ口遺跡	41
11 三枚橋遺跡	45
第3章 工事立会	48
1 追堀遺跡	48
2 明科遺跡群本町遺跡	52
第4章 史跡の現状変更等	59
1 長野県史跡 多田加助宅跡	59
引用・参考文献	66
調査報告書抄録	

挿図目次

第1図	発掘調査等位置図（北部）……………	2	第29図	潮神明宮前遺跡試掘セクション図 ……	35
第2図	発掘調査等位置図（南部）……………	4	第30図	潮神明宮前遺跡試掘出土遺物 ……	36
第3図	発掘調査等位置図（穂高駅周辺） ……	6	第31図	潮神明宮前遺跡試掘出土遺物写真 ……	36
第4図	発掘調査等位置図（明科駅周辺） ……	7	第32図	潮神明宮前遺跡試掘位置図 ……	38
第5図	県町遺跡試掘位置図 ……	13	第33図	潮神明宮前遺跡試掘トレンチ配置図 ……	39
第6図	県町遺跡試掘トレンチ配置図 ……	14	第34図	潮神明宮前遺跡試掘セクション図 ……	39
第7図	県町遺跡試掘土層概念図 ……	14	第35図	潮神明宮前遺跡試掘出土土器 ……	40
第8図	等々力町巾上巾下遺跡試掘位置図 ……	16	第36図	潮神明宮前遺跡試掘出土土器写真 ……	40
第9図	等々力町巾上巾下遺跡試掘 調査区配置図 ……	17	第37図	ハツコ遺跡試掘位置図 ……	41
第10図	等々力町巾上巾下遺跡試掘 土層概念図 ……	17	第38図	ハツコ遺跡試掘トレンチ配置図 ……	42
第11図	本町遺跡・龍門淵遺跡試掘位置図 ……	18	第39図	ハツコ遺跡試掘土層断面図 ……	42
第12図	本町遺跡・龍門淵遺跡試掘 トレンチ配置図 ……	19	第40図	ハツコ遺跡試掘出土遺物 ……	43
第13図	本町遺跡・龍門淵遺跡試掘 土層概念図 ……	19	第41図	ハツコ遺跡試掘出土遺物写真 ……	43
第14図	栄町遺跡試掘位置図 ……	21	第42図	三枚橋遺跡試掘位置図 ……	45
第15図	栄町遺跡試掘トレンチ配置図 ……	22	第43図	三枚橋遺跡試掘トレンチ配置図 ……	46
第16図	栄町遺跡試掘土層概念図 ……	22	第44図	三枚橋遺跡試掘土層概念図 ……	46
第17図	明科廃寺試掘位置図 ……	24	第45図	追堀遺跡工事立会位置図 ……	48
第18図	明科廃寺推定区画図 ……	25	第46図	追堀遺跡工事立会土層概念図 ……	49
第19図	明科廃寺試掘トレンチ配置図 ……	25	第47図	追堀遺跡工事立会出土土器 ……	49
第20図	明科廃寺試掘概要図 ……	26	第48図	追堀遺跡工事立会出土土器写真 ……	50
第21図	県町遺跡試掘位置図 ……	28	第49図	本町遺跡工事立会位置図 ……	52
第22図	県町遺跡試掘トレンチ配置図 ……	29	第50図	本町遺跡工事立会概要図 ……	53
第23図	県町遺跡試掘土層概念図 ……	29	第51図	本町遺跡工事立会出土遺物1 ……	53
第24図	南松原遺跡試掘位置図 ……	31	第52図	本町遺跡工事立会出土遺物2 ……	54
第25図	南松原遺跡試掘トレンチ配置図 ……	32	第53図	本町遺跡工事立会出土遺物写真 ……	55
第26図	南松原遺跡試掘土層概念図 ……	32	第54図	多田加助宅跡調査位置図 ……	59
第27図	潮神明宮前遺跡試掘位置図 ……	34	第55図	堀の規模の比較 ……	60
第28図	潮神明宮前遺跡試掘トレンチ配置図 ……	35	第56図	①上水道管敷設にかかる調査概要図 ……	61
			第57図	②切株撤去にかかる調査平面図 ……	63
			第58図	切株撤去にかかる調査セクション図 ……	64

挿表目次

第1表	発掘調査等一覧	8	第4表	ハツ口遺跡試掘出土遺物観察表	44
第2表	潮神明宮前遺跡試掘出土遺物観察表	36	第5表	追廻遺跡工事立会出土土器観察表	50
第3表	潮神明宮前遺跡試掘出土土器観察表	40	第6表	本町遺跡工事立会出土遺物観察表	56

第1章 令和2年度埋蔵文化財保護事業

1 埋蔵文化財保護事業の概要

(1) 事務局の体制

令和2年度の安曇野市における埋蔵文化財保護事業は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が担当した。体制は次のとおりである。

事務局	安曇野市教育委員会教育部	文化課	文化財保護係
	文化課長	山下泰永	
	文化財保護係長	中谷高志	
	文化財保護係	土屋和章、横山幸子、佐藤眞弓、白居直之、田多井智恵、望月裕子、宮下智美	

(2) 地理的環境と遺跡の立地

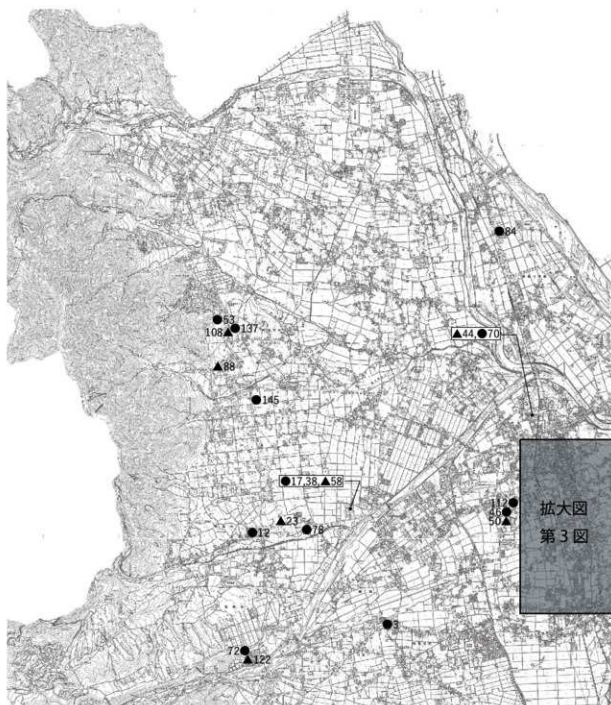
安曇野市は平成17年(2005)10月1日に豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町の5町村が合併して誕生した市で、長野県のほぼ中央部に位置し、北は大町市、松川村、池田町、生坂村、筑北村、南は松本市に隣接する。地形的には松本盆地の中ほどにあり、西は飛騨山脈、東は筑摩山地に囲まれる。松本盆地は、縁辺部から流れる複数の河川が運搬した堆積物が形成している。

安曇野市内に所在する遺跡は、現在398か所が周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、縄文時代早期から現代にわたる。縄文時代の遺跡は、飛騨山脈山麓及び犀川以東の河岸段丘上に多く立地しており、過去の調査から、縄文時代中期に隆盛を極めたことがわかる。弥生時代になると遺跡数は減少し、集落の立地も扇状地扇尖及び扇端へ移る。生業形態の変化によって集落の立地が変化した可能性があり、この集落立地は基本的に現代まで踏襲されている。安曇野市では、前・中期の古墳は現在までに確認されておらず、後期の群集墳が飛騨山脈山麓や明科地域に分布する。奈良時代以降は、前時代までの立地を踏襲するように犀川以西の扇端と犀川以東の河岸段丘上に集落が営まれるなか、明科地域では明科遺跡群明科庵寺と呼ばれる古代寺院の存在が確認されている。また、豊科田沢の山間部一帯から隣接する松本市域にかけては須恵器窯群が築かれている。

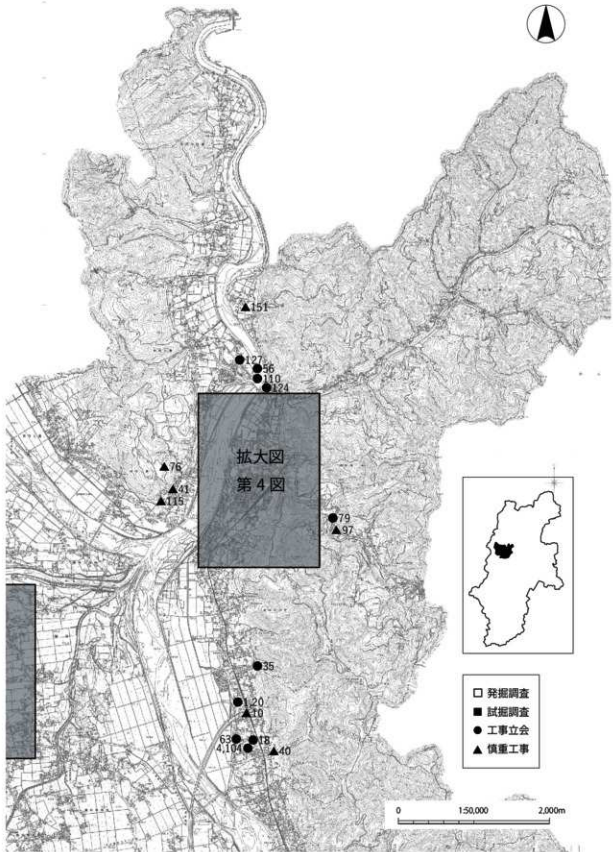
(3) 令和2年度の概要

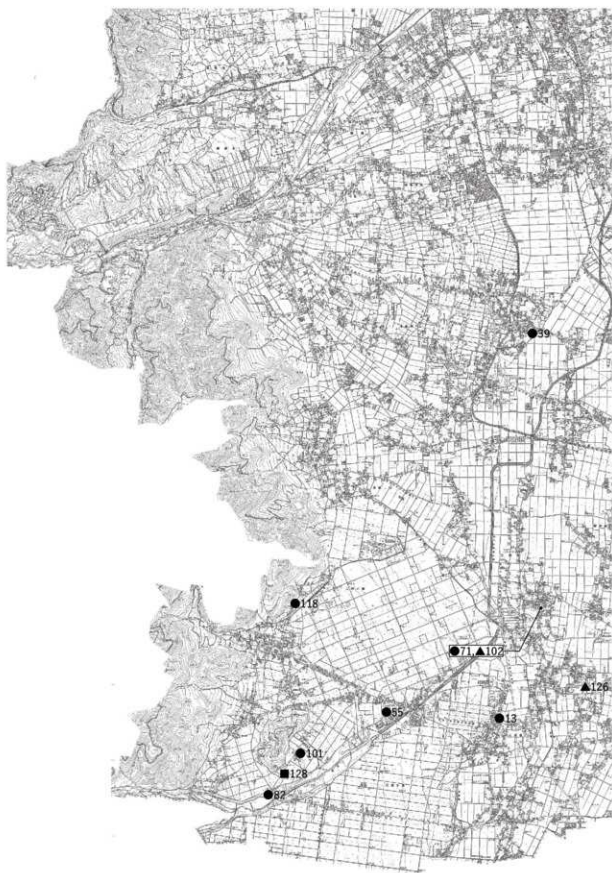
令和2年度の安曇野市内における発掘調査等の総数は全157件であった(第1表)。このうち安曇野市教育委員会が主体となって実施した発掘調査等は合計157件である。内訳は、発掘調査2件、試掘11件、工事立会88件、慎重工事56件となっている。それぞれの位置を第1～4図に示す。試掘調査の詳細は第2章に、工事立会の詳細は第3章に記載した。

令和2年度は、國學院大學文学部考古学研究室による穂高古墳群F9号墳の学術調査は実施しなかった。

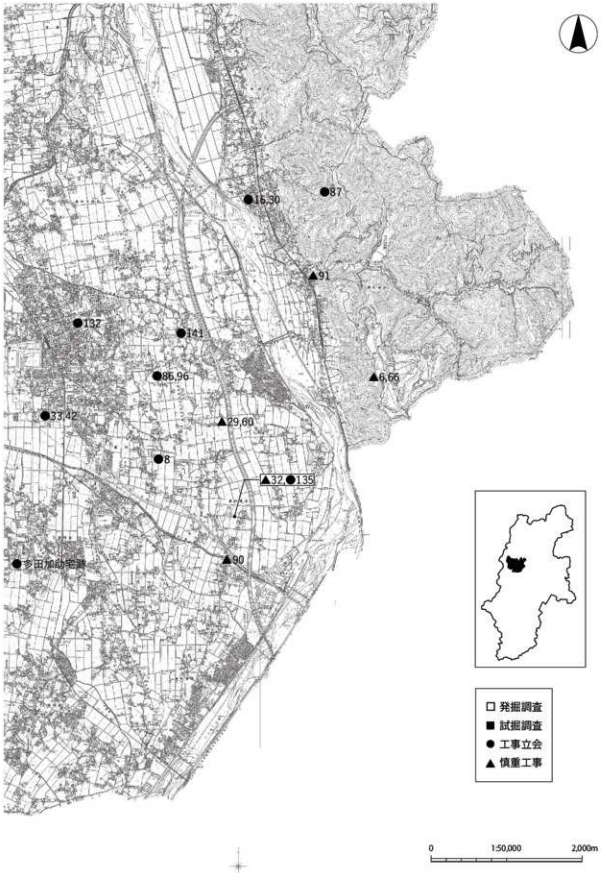


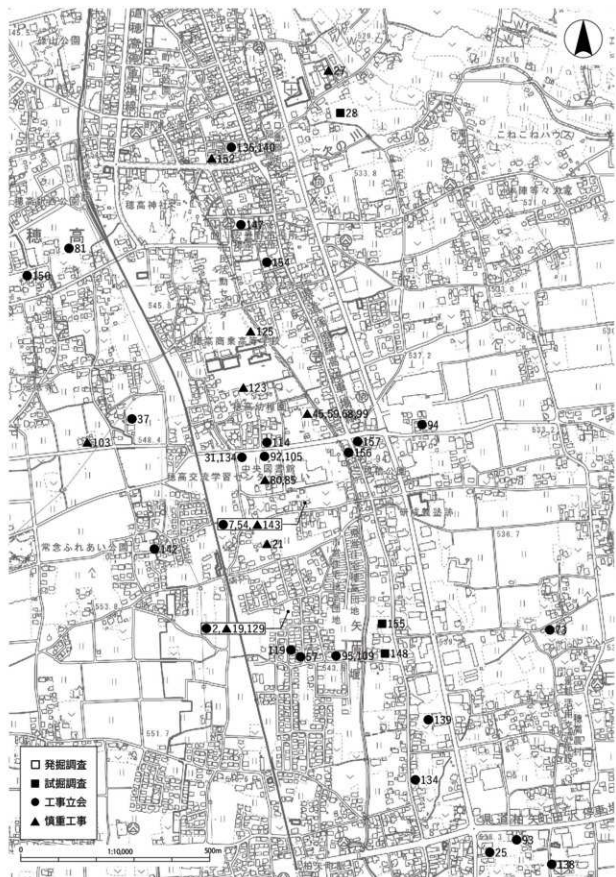
第1図 発掘調査等位置図（北部）





第2図 発掘調査等位置図（南部）





第3図 発掘調査等位置図（穂高駅周辺）

第1章 令和2年度埋蔵文化財保護事業

第1表 発掘調査等一覧

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●1	工事立会	光道跡群北村遺跡	明科光183番2外2筆	個人住宅	20200401	20200401	市教委
●2	工事立会	追廻遺跡	穂高柏原1672番11外1筆	ガス・水道・電気等	20200403	20200403	市教委
●3	工事立会	穂高古墳群 F1号墳ほか	穂高柏原2257番16外	その他開発	20200406	20200406	市教委
●4	工事立会	光道跡群中条遺跡	明科光857番1外2筆	個人住宅	20200407	20200407	市教委
■5	試掘	明科道跡群泉町遺跡	明科中川手3739番3	道路	20200408	20200408	市教委
▲6	慎重工事	上ノ山宮跡群ほか	豊科田沢1814番473外	その他開発	20200409	20200409	市教委
●7	工事立会	追廻遺跡	穂高6750番1	宅地造成	20200423	20200423	市教委
●8	工事立会	吉野町遺跡	豊科3038番外	個人住宅	20200424	20200424	市教委
▲9	慎重工事	明科道跡群采町遺跡	明科中川手4135番4	道路	20200427	20200427	市教委
▲10	慎重工事	光道跡群北村遺跡	明科光432番6	道路	20200427	20200427	市教委
▲11	慎重工事	明科道跡群泉町遺跡	明科中川手3739番1	その他開発	20200427	20200427	市教委
●12	工事立会	神谷遺跡	穂高牧920番	ガス・水道・電気等	20200501	20200501	市教委
●13	工事立会	上総屋敷遺跡	三郷温2058番1外2筆	個人住宅	20200507	20200507	市教委
●14	工事立会	こや城	明科中川手4619番1外1筆	ガス・水道・電気等	20200507	20200507	市教委
▲15	慎重工事	明科道跡群泉町遺跡	明科中川手3739番1の内	店舗	20200507	20200507	市教委
●16	工事立会	光道跡	豊科光1588番5外1筆	個人住宅	20200508	20200508	市教委
●17	工事立会	空保木城跡	穂高牧1110番5外	工場	20200408	20200508	市教委
●18	工事立会	光道跡群中条遺跡	明科光775番1外1筆	個人住宅	20200512	20200512	市教委
▲19	慎重工事	追廻遺跡	穂高柏原1672番12	個人住宅	20200512	20200512	市教委
●20	工事立会	光道跡群北村遺跡	明科光185番2外2筆	個人住宅	20200513	20200513	市教委
▲21	慎重工事	追廻遺跡	穂高柏原1700番41	個人住宅	20200514	20200514	市教委
●22	工事立会	町屋敷遺跡	明科中川手2304番2の一部	個人住宅	20200515	20200515	市教委
▲23	慎重工事	他谷遺跡	穂高牧1041番5	ガス・水道・電気等	20200518	20200518	市教委
▲24	慎重工事	瀬遺跡群瀬神明宮前遺跡	明科東川手510番1	その他開発	20200525	20200525	市教委
●25	工事立会	馬場街道遺跡	穂高786番1外2筆	その他の建物	20200527	20200527	市教委
●26	工事立会	明科道跡群龍門洞遺跡14か	明科中川手3929番2外1筆	その他開発	20200519	20200528	市教委
▲27	慎重工事	等々力町市上巾下遺跡	穂高4620番1	工場	20200529	20200529	市教委
■28	試掘	等々力町市上巾下遺跡	穂高4284番1外1筆	その他開発	20200605	20200605	市教委
▲29	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科高家3969番16	個人住宅	20200605	20200605	市教委
●30	工事立会	光道跡	豊科光1590番3	ガス・水道・電気等	20200610	20200610	市教委
●31	工事立会	藤塚遺跡	穂高6780番5	個人住宅	20200611	20200611	市教委
▲32	慎重工事	小海渡遺跡	豊科高家3100番7	道路	20200611	20200611	市教委
●33	工事立会	成相氏館跡	豊科1909番6外1筆	個人住宅	20200615	20200615	市教委
▲34	慎重工事	明科道跡群采町遺跡	明科中川手6833番11	個人住宅	20200616	20200616	市教委
●35	工事立会	光道跡群北村遺跡	明科光1番5の一部	個人住宅	20200617	20200617	市教委
■36	試掘	明科道跡群本町遺跡ほか	明科中川手3929番4外1筆	道路	20200618	20200618	市教委
●37	工事立会	南原遺跡	穂高6905番4	個人住宅	20200619	20200619	市教委

第1章 令和2年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	道跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●38	工事立会	空保木城跡	穂高牧1086番外2筆	その他開発	20200622	20200622	市教委
●39	工事立会	下瀬道南道跡	福金烏川4888番1	その他の建物	20200624	20200624	市教委
▲40	慎重工事	光道跡群北村道跡14か	明科光736番5先外	ガス・水道・電気等	20200625	20200625	市教委
▲41	慎重工事	上野道跡14か	明科七貫6234番1先	道路	20200625	20200625	市教委
●42	工事立会	成相氏館跡	豊科1909番2外1筆	ガス・水道・電気等	20200626	20200626	市教委
▲43	慎重工事	瀬道跡群瀬神明宮前道跡	明科東川手13番付近	道路	20200629	20200629	市教委
▲44	慎重工事	貝梅道上道跡	穂高5033番12外	個人住宅	20200629	20200629	市教委
▲45	慎重工事	藤塚道跡	穂高6806番8	個人住宅	20200702	20200702	市教委
●46	工事立会	宗徳寺道跡	穂高6442番6外1筆	個人住宅	20200707	20200707	市教委
▲47	慎重工事	明科道跡群栄町道跡	明科中川手4249番11付近	ガス・水道・電気等	20200707	20200707	市教委
●48	工事立会	明科道跡群上郷道跡	明科中川手3586番4	その他開発	20200714	20200714	市教委
■49	試験	明科道跡群栄町道跡	明科中川手3727番1	道路	20200715	20200715	市教委
▲50	慎重工事	宗徳寺道跡	穂高6427番1先	道路	20200716	20200716	市教委
▲51	慎重工事	瀬道跡群古屋敷道跡	明科東川手328番10	個人住宅	20200716	20200716	市教委
▲52	慎重工事	明科道跡群本町道跡	明科中川手3929番1付近	ガス・水道・電気等	20200716	20200716	市教委
●53	工事立会	青原寺大門道跡	穂高有明3636番4の一部外4筆	個人住宅	20200722	20200722	市教委
●54	工事立会	追瀬道跡	穂高6750番1	個人住宅	20200727	20200727	市教委
●55	工事立会	東小倉道跡	三郷小倉2513番1	道路	20200729	20200729	市教委
●56	工事立会	伊勢宮道跡	明科七貫8951番1付近	ガス・水道・電気等	20200731	20200731	市教委
●57	工事立会	追瀬道跡	穂高柏原1649番9	個人住宅	20200803	20200803	市教委
▲58	慎重工事	空保木城跡	穂高牧1110番付近	ガス・水道・電気等	20200803	20200803	市教委
▲59	慎重工事	藤塚道跡	穂高6806番11	個人住宅	20200803	20200803	市教委
▲60	慎重工事	上手木戸道跡	豊科高家3969番19	個人住宅	20200803	20200803	市教委
□61	発掘調査	明科道跡群古殿屋敷	明科中川手4232番1	その他の建物	20200605	20200804	市教委
□62	発掘調査	明科道跡群古殿屋敷	明科中川手4232番1のうち	その他の建物	20200605	20200804	市教委
●63	工事立会	光道跡群下里館	明科光840番5外1筆	その他開発	20200824	20200824	市教委
▲64	慎重工事	明科道跡群栄町道跡	明科中川手4043番11外	道路	20200825	20200825	市教委
▲65	慎重工事	明科道跡群泉町道跡	明科中川手3739番3	道路	20200825	20200825	市教委
▲66	慎重工事	上ノ山宮跡群ほか	豊科田88141番473外	その他開発	20200831	20200831	市教委
●67	工事立会	明科道跡群上郷道跡	明科中川手4059番4外1筆	個人住宅	20200901	20200901	市教委
▲68	慎重工事	藤塚道跡	穂高6806番10	個人住宅	20200901	20200901	市教委
●69	工事立会	明科道跡群本町道跡	明科中川手3828番7	個人住宅	20200902	20200902	市教委
●70	工事立会	貝梅道上道跡	穂高5033番13	ガス・水道・電気等	20200908	20200908	市教委
●71	工事立会	龍峰寺跡	三郷温5628番1外2筆	個人住宅	20200909	20200909	市教委
●72	工事立会	塚下道跡	穂高牧2315番6	ガス・水道・電気等	20200910	20200910	市教委
●73	工事立会	八ツ口道跡	穂高1403番外1筆	個人住宅	20200911	20200911	市教委
▲74	慎重工事	明科道跡群泉町道跡	明科中川手3789番6先	ガス・水道・電気等	20200917	20200917	市教委
▲75	慎重工事	明科道跡群栄町道跡	明科中川手6833番60外	道路	20200924	20200924	市教委

第1章 令和2年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
▲76	慎重工事	押野城	明科七貫6459番2外	道路	20200925	20200925	市教委
▲77	慎重工事	明科道路群朝町道路	明科中川手3791番3付近外	ガス・水道・電気等	20200925	20200925	市教委
●78	工事立会	荒神堂遺跡	穂高牧819番1	個人住宅	20200928	20200928	市教委
●79	工事立会	平上ノ段館	明科中川手5225番	河川	20200929	20200929	市教委
▲80	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6762番11外1筆	個人住宅	20200929	20200929	市教委
●81	工事立会	宮脇遺跡	穂高6571番外9筆	その他の建物	20200303	20201001	市教委
●82	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉5830番23外2筆	河川	20201001	20201001	市教委
●83	工事立会	明科道路群本町遺跡	明科中川手3832番1	ガス・水道・電気等	20201001	20201001	市教委
●84	工事立会	遺跡外	穂高北穂高3120番	個人住宅	20201002	20201002	市教委
▲85	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6762番13	個人住宅	20201005	20201005	市教委
●86	工事立会	軽海渡遺跡	豊科3796番1外1筆	宅地造成	20201006	20201006	市教委
●87	工事立会	光城跡	豊科光2194番イ-1-3	その他開発	20201007	20201016	市教委
▲88	慎重工事	青原寺大門遺跡	穂高有明3613番32先	ガス・水道・電気等	20201019	20201019	市教委
●89	工事立会	明科道路群上郷遺跡	明科中川手4074番	ガス・水道・電気等	20201020	20201020	市教委
▲90	慎重工事	宮前遺跡	豊科高家768番付近	道路	20201020	20201020	市教委
▲91	慎重工事	円満寺跡	豊科田沢4917番1	その他開発	20201020	20201020	市教委
●92	工事立会	藤塚遺跡	穂高6764番16	個人住宅	20201026	20201026	市教委
●93	工事立会	馬場街道遺跡	穂高775番2	個人住宅	20201027	20201027	市教委
●94	工事立会	藤塚遺跡	穂高2452番9	個人住宅	20201029	20201029	市教委
●95	工事立会	追廻遺跡	穂高柏原1656番1	宅地造成	20201029	20201029	市教委
●96	工事立会	軽海渡遺跡	豊科3796番1付近	ガス・水道・電気等	20201103	20201103	市教委
▲97	慎重工事	平上ノ段館	明科中川手6756番1先	ガス・水道・電気等	20201109	20201109	市教委
●98	工事立会	明科道路群栄町遺跡	明科中川手6836番9外3筆	個人住宅兼工場又は店舗	20201110	20201110	市教委
▲99	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6806番7	個人住宅	20201112	20201112	市教委
▲100	慎重工事	明科道路群栄町遺跡	明科中川手6818番45先	道路	20201113	20201113	市教委
●101	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉6425番1外3筆	個人住宅	20201117	20201117	市教委
▲102	慎重工事	龍峰寺跡	三郷品5632番11外	道路	20201124	20201124	市教委
▲103	慎重工事	南原遺跡	穂高6952番6外	その他の建物	20201125	20201125	市教委
●104	工事立会	光道跡群中条遺跡	明科光857番1外2筆	個人住宅	20201125	20201125	市教委
●105	工事立会	藤塚遺跡	穂高6764番18外1筆	個人住宅	20201126	20201126	市教委
●106	工事立会	明科道路群栄町遺跡	明科中川手4004番1の一部外2筆	個人住宅	20201124	20201201	市教委
▲107	慎重工事	明科道路群栄町遺跡	明科中川手4138番11	個人住宅	20201202	20201202	市教委
▲108	慎重工事	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明1867番3	その他の建物	20201202	20201202	市教委
●109	工事立会	追廻遺跡	穂高柏原1656番1	個人住宅	20201207	20201207	市教委
●110	工事立会	伊勢宮遺跡	明科七貫8939番1外	道路	20201207	20201207	市教委
●111	工事立会	瀬道跡群新屋遺跡	明科東川手908番先	道路	20201208	20201208	市教委
●112	工事立会	宗徳寺遺跡	穂高6438番1	個人住宅	20201209	20201209	市教委
■113	試掘	明科道路群明科庵寺	明科中川手3531番5外3筆	道路、個人住宅	20201125	20201214	市教委

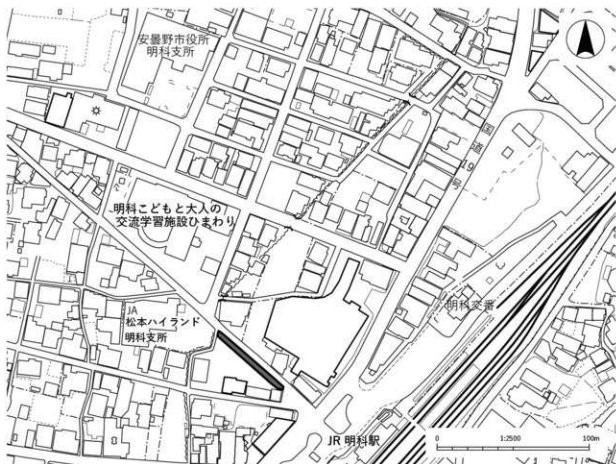
No.	調査	道路	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●114	工事立会	藤塚道路	穂高6797番10先	ガス・水道・電気等	20201217	20201222	市教委
▲115	慎重工事	やしき道路	明科七貫6219番1先	道路	20201224	20201224	市教委
●116	工事立会	明科道路群県町道路	明科中川手3509番2外1筆	個人住宅	20201225	20201225	市教委
■117	試掘	明科道路群県町道路	明科中川手3749番2	道路	20210106	20210106	市教委
●118	工事立会	一本松道路	三郷小倉506番1の内外1筆	その他の建物	20210108	20210108	市教委
●119	工事立会	追廻道路	穂高柏原1648番6付近	ガス・水道・電気等	20210108	20210108	市教委
●120	工事立会	明科道路群本町道路	明科中川手3929番4外	ガス・水道・電気等	20210108	20210108	市教委
●121	工事立会	明科道路群県町道路	明科中川手3749番2	道路	20210118	20210118	市教委
▲122	慎重工事	塚下道路	穂高牧2305番	ガス・水道・電気等	20210119	20210119	市教委
▲123	慎重工事	藤塚道路	穂高6814番6付近	河川	20210128	20210128	市教委
●124	工事立会	木戸橋ノ瓜道路	明科東川手13351番4先	ガス・水道・電気等	20210129	20210129	市教委
▲125	慎重工事	藤塚道路	穂高6839番	その他開発	20210202	20210202	市教委
▲126	慎重工事	三柱神社東道路	三郷明盛4712番9外1筆	ガス・水道・電気等	20210202	20210202	市教委
●127	工事立会	荒井道路	明科七貫8865番6	その他開発	20210203	20210203	市教委
■128	試掘	南長原道路	三郷小倉6412番1	工場	20210204	20210204	市教委
▲129	慎重工事	追廻道路	穂高柏原1672番13	個人住宅	20210204	20210204	市教委
●130	工事立会	明科道路群本町道路	明科中川手3929番1	個人住宅	20210107	20210204	市教委
■131	試掘	潮道路群潮神明宮前道路	明科東川手528番6外1筆	その他開発	20210210	20210210	市教委
●132	工事立会	法蔵寺館跡ほか	豊科4780番1南先外	その他の建物	20210209	20210212	市教委
●133	工事立会	藤塚道路	穂高6760番5	個人住宅	20210213	20210213	市教委
●134	工事立会	矢原権現池道路	穂高993番22先	道路	20210217	20210217	市教委
●135	工事立会	小海改道路	豊科高家3168番	ガス・水道・電気等	20210219	20210219	市教委
●136	工事立会	穂高神社境内道路	穂高6035番4	個人住宅	20210222	20210222	市教委
●137	工事立会	小岩塚下木戸道路	穂高有明3056番2	その他開発	20210222	20210222	市教委
●138	工事立会	中在池道路	穂高618番	ガス・水道・電気等	20210224	20210224	市教委
●139	工事立会	矢原権現池道路	穂高1006番付近	河川	20210226	20210226	市教委
●140	工事立会	穂高神社境内道路	穂高6035番4	ガス・水道・電気等	20210304	20210304	市教委
●141	工事立会	上手木戸道路	豊科南穂高135番1	個人住宅	20210309	20210309	市教委
●142	工事立会	大坪沢道路	穂高柏原1830番9	その他の建物	20210310	20210310	市教委
▲143	慎重工事	追廻道路	穂高6750番3	個人住宅	20210316	20210316	市教委
▲144	慎重工事	明科道路群栄町道路	明科中川手4174番	ガス・水道・電気等	20210316	20210316	市教委
●145	工事立会	有明南原道路近接地	穂高有明7610番1	その他開発	20210319	20210319	市教委
■146	試掘	潮道路群潮神明宮前道路	明科東川手263番1	その他の建物	20210322	20210322	市教委
●147	工事立会	穂高神社境内道路ほか	穂高6658番外	その他の建物	20210322	20210322	市教委
■148	試掘	八ツ口道路	穂高柏原960番1の一部	個人住宅	20210323	20210323	市教委
●149	工事立会	上手短敷道路	明科中川手3169番1	その他の建物	20210324	20210324	市教委
●150	工事立会	宮脇道路	穂高10105番5外1筆	個人住宅	20210324	20210324	市教委
▲151	慎重工事	上生野道路	明科東川手13811番4	個人住宅	20210325	20210325	市教委

第1章 令和2年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
▲152	慎重工事	穂高神社境内遺跡	穂高5976番2	その他の建物	20210325	20210325	市教委
▲153	慎重工事	瀬道跡群瀬神明宮前遺跡	明科東川手263番1の一部	その他の建物	20210325	20210325	市教委
●154	工事立会	北才の神道跡	穂高6668番1	その他開発	20210327	20210327	市教委
■155	試掘	三枚橋遺跡	穂高柏原962番5外2筆	宅地造成	20210329	20210329	市教委
●156	工事立会	藤塚遺跡	穂高6725番1	その他開発	20210329	20210329	市教委
●157	工事立会	藤塚遺跡	穂高1835番2外2筆	店舗	20210331	20210331	市教委

第2章 試掘調査

1 明科遺跡群 県町遺跡 (第1表■5)



第5図 県町遺跡試掘位置図

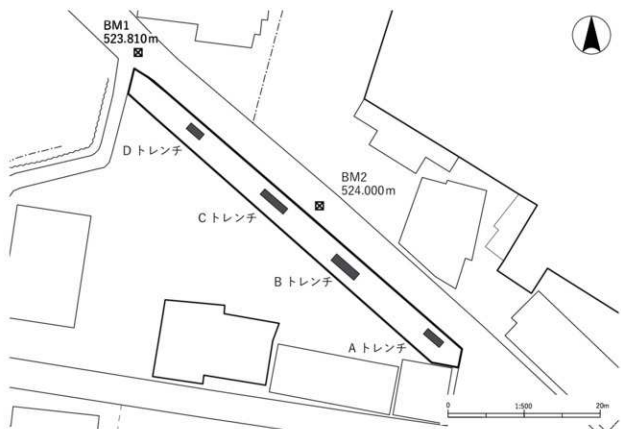
所在地	安曇野市明科中川手3739番3	調査面積	12㎡
調査期間	令和2年(2020)4月8日	調査契機	道路
調査参加者	土屋和章、横山幸子、白居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

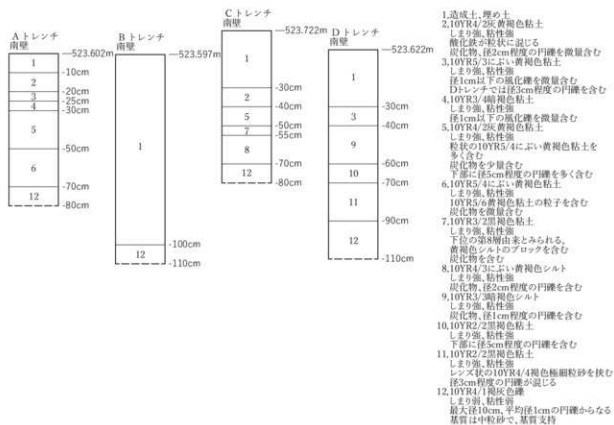
明科遺跡群県町遺跡(以下、「県町遺跡」とする。)は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに発掘調査を実施した記録はない。

今回、市道拡幅に際し4か所のトレンチ(A～Dトレンチ)を設定し、本調査の要否を判断するための試掘調査を実施した。調査の結果、地表下80～110cmの掘削で、A・C・Dトレンチにおいて造成土の下位にシルト・粘土層を確認した。Bトレンチでは、地表下100cmまで土層は攪乱を受けていた。地表下70～110cm以深では、A～Dトレンチに共通して礫層が存在していた。第2・5～9層には炭化物が含まれていたが、遺物は出土しなかった。いずれの層からも、遺構は検出できなかった。

上記の結果から、今回の工事での本調査は不要と判断した。



第6図 県町遺跡試掘トレンチ配置図



第7図 県町遺跡試掘土層概念図



1 調査前 (西から)



2 Aトレンチ完掘 (東から)



3 Aトレンチ南壁



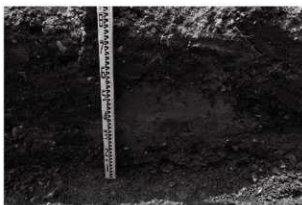
4 Bトレンチ完掘 (南から)



5 Bトレンチ南壁



6 Cトレンチ完掘 (西から)

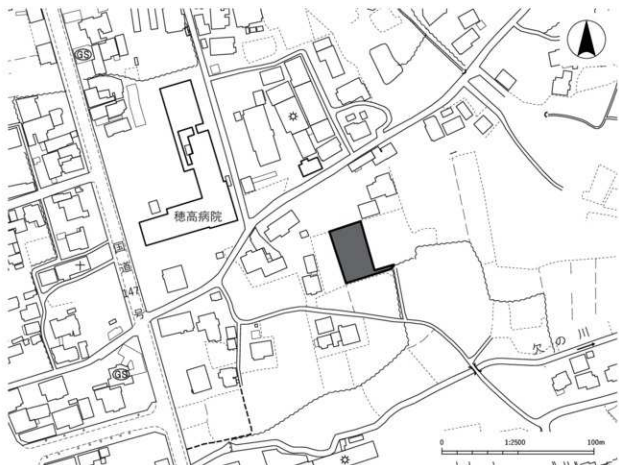


7 Cトレンチ南壁



8 Dトレンチ南壁

とどりきまちはぼうえはぼした 2 等々力町巾巾上巾下遺跡 (第1表■28)



第8図 等々力町巾巾上巾下遺跡試掘位置図

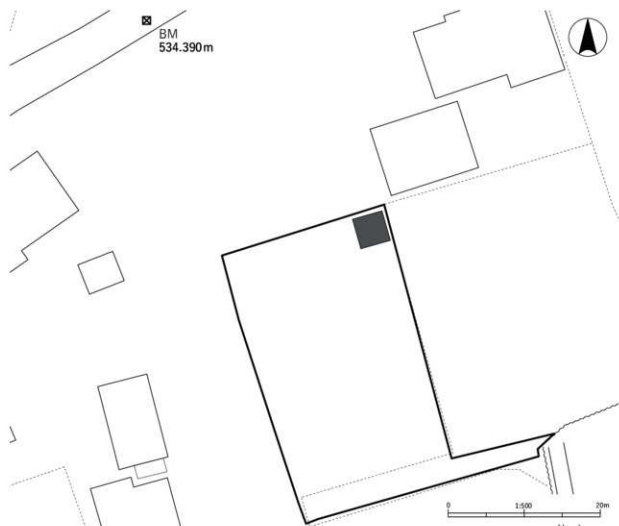
所在地	安曇野市穂高4284番1外1筆	調査面積	17㎡
調査期間	令和2年(2020)6月5日	調査契機	その他開発(駐車場整備)
調査参加者	横山幸子、田多井智恵		

(1) 概要

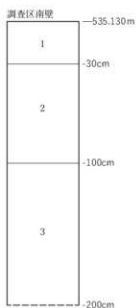
等々力町巾巾上巾下遺跡は、馬川扇状地扇央～扇端にかけて所在する縄文・弥生時代及び平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに2次にわたる発掘調査を実施している。平成28年(2016)度の第2次発掘調査では、覆土に内耳土器破片を含む堅穴状遺構、覆土に弥生土器を含む堅穴建物跡を検出したほか、遺構外から弥生土器片が出土した(安曇野市教委2018)。

今回は駐車場整備に際し、本調査の要否を判断するため浸透柵設置箇所ですり調査を実施した。掘削が深度200cmに及ぶため、土層観察は地上から行った。現代の攪乱の下位に、酸化鉄を含むシルト層としまりの弱い礫層を確認した。遺構は検出できず、遺物は出土しなかった。

上記の結果から、今回の工事での本調査は不要と判断した。



第9図 等々力町市上市下遺跡試掘調査区配置図



1. 掘乱
2. 黄褐色シルト
しまり中、酸化鉄を含む
3. 雑
しまり弱、最大径約20cm、平均径約2cmの薬円礫からなる

※掘削深度が深いため、第3層は地上からの観察による



調査地近景（南西から）

第10図 等々力町市上市下遺跡試掘土層概念図

3 明科遺跡群^{ほんまち}本町遺跡・明科遺跡群^{りゅうもんぶち}龍門淵遺跡 (第1表■36)

第11図 本町遺跡・龍門淵遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市明科中川手3929番4外1筆	調査面積	11㎡
調査期間	令和2年(2020)6月18日	調査契機	道路
調査参加者	土屋和章、横山幸子、田多井智恵		

(1) 概要

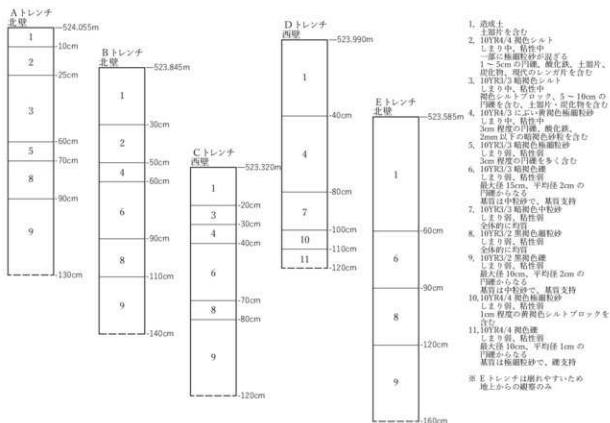
明科遺跡群本町遺跡(以下、「本町遺跡」とする。)は、犀川右岸の段丘上に所在する弥生～平安時代の集落跡である。明科遺跡群龍門淵遺跡(以下、「龍門淵遺跡」とする。)は、本町遺跡の西に接する弥生・古墳時代の祭祀跡である。昭和56年(1981)の土取りの際に、弥生土器、古墳～平安時代の土器が出土している(明科町史編集会編1984)。

今回、市道拡幅に先立ち5か所のトレンチ(A～Eトレンチ)を設定し、本調査の要否を判断するための試掘調査を実施した。レンガ片等が混ざる現代の造成土(第1・2層)には、土器片が混入していた。Aトレンチでは、造成土の下位の攪乱を受けたシルト層(第3層)から土器片が出土した。攪乱を受けた時期は不明である。第1～3層の下位は砂礫層であった。Aトレンチ及び調査地の地表では、土師器片を採取した。遺構はどのトレンチからも検出できなかった。

上記の結果から、今回の調査地に遺構は存在しないが、付近には存在する可能性があると考えられる。



第12図 本町遺跡・龍門淵遺跡試掘トレンチ配置図



第13図 本町遺跡・龍門淵遺跡試掘土層概念図



1 A・Bトレンチ調査前（東から）



2 C・Dトレンチ調査前（北から）



3 Aトレンチ北壁



4 Bトレンチ北壁



5 Cトレンチ西壁



6 Dトレンチ西壁



7 Eトレンチ北壁



8 本町遺跡試掘出土土器

4 明科遺跡群 栄町遺跡 (第1表■49)



第14図 栄町遺跡試掘位置図

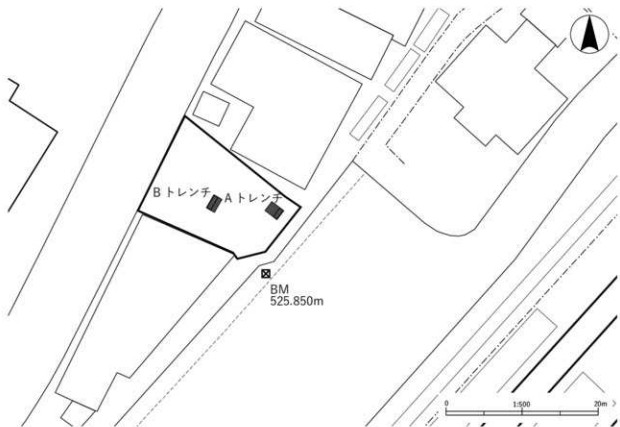
所在地	安曇野市明科中川手3727番1	調査面積	5㎡
調査期間	令和2年(2020)7月15日	調査契機	道路
調査参加者	土屋和章、横山幸子、白居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

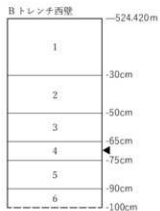
明科遺跡群栄町遺跡(以下、「栄町遺跡」とする。)は、犀川右岸の段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに安曇野市役所明科支所周辺で4次の発掘調査を実施しており、古墳時代後期の集落跡を確認している。

今回、明科駅前整備に伴う市道拡幅に際し2か所のトレンチ(A・Bトレンチ)を設定し、本調査の可否を判断するための試掘調査を実施した。Aトレンチにおいて、地表下80cmの掘削で確認できたのは、近現代の攪乱(第1・2層)と、シルト・砂層(第4・6層)であった。Bトレンチでは、地表下100cmまでの掘削により近現代の攪乱の下位に粘土・シルト・砂層(第3～6層)の自然堆積層を確認した。炭化物を含む粘土層(第4層)から土師器片が1点出土したが、1cm程度の小破片であり、風化しているため、流入したものと判断した。遺構はいずれのトレンチからも検出できなかった。

上記の結果から、今回の工事での本調査は不要と判断した。



第15図 栄町遺跡試掘トレンチ配置図



1. 現代の造成土
2. 陶器、ガラス片を含む
礎、木片を多数含む、近現代の擾乱か
3. 7.5Y4/1灰色粘土
しまり強、粘性強
1.5~2cmの円礫、炭化物を含む
4. 5B4/1暗青灰色シルト
しまり中、粘性中
全体的に均質
Bトレンチでは、炭化物を微量に含む
1cm程度の土器片を1点含む
5. 10Y5/1灰色シルト
しまり中、粘性強
全体的に均質
第4層より粗粒
6. 2.5Y3/3黄オリーブ褐色細粒砂
しまり弱、粘性弱
全体的に均質
水が染み出る

※◀は遺物確認位置

第16図 栄町遺跡試掘土層概念図



1 調査前（北西から）



2 調査前（南東から）



3 A トレンチ完掘（北から）



4 A トレンチ南壁



5 B トレンチ完掘（北から）



6 B トレンチ西壁

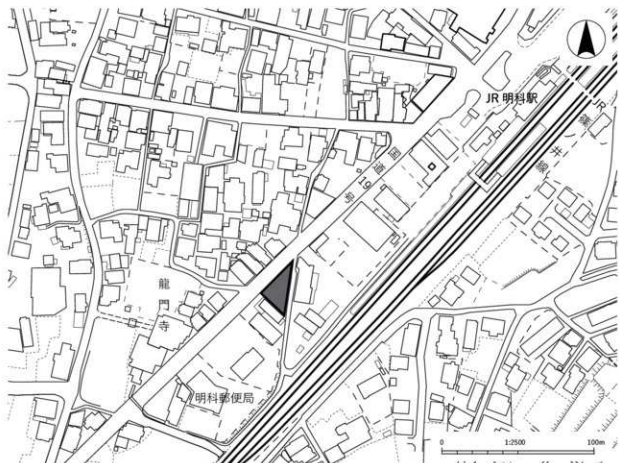


7 埋戻し後（南西から）



8 栄町遺跡試掘出土土器

5 明科遺跡群明科廃寺（第1表■113）



第17図 明科廃寺試掘位置図

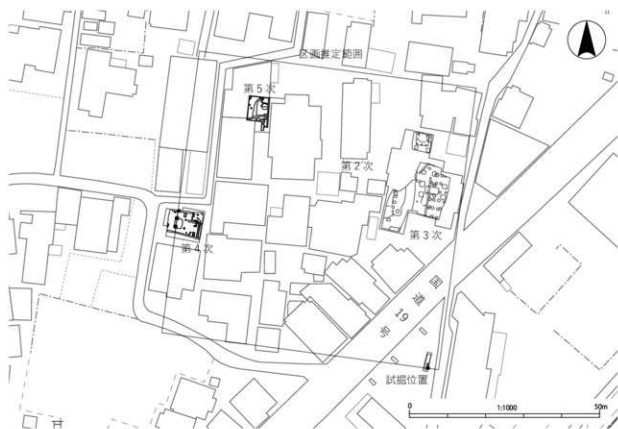
所在地	安曇野市明科中川手3531番5外3筆	調査面積	10㎡
調査期間	令和2年(2020)11月25日～令和2年(2020)12月14日	調査契機	道路、個人住宅
調査参加者	土屋和章、横山幸子、白居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

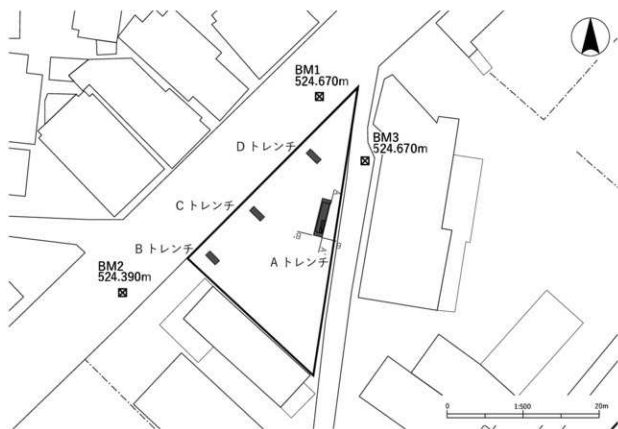
明科遺跡群明科廃寺は、犀川右岸の段丘上に所在する古代の寺院跡である。この遺跡ではこれまでに5次にわたる発掘調査が実施され、掘立柱建物跡や区画施設と考えられる掘立柱構列が見つかったが、主要建物は未確認であり伽藍配置も不明である（安曇野市教委2017・2021）。

今回は、個人住宅建設及び国道19号拡幅に際して試掘調査を実施した。調査地は、推定される明科廃寺外郭の南東隅付近に位置するため、外郭施設の検出を念頭に4か所のトレンチ（A～Dトレンチ）調査を実施した。Aトレンチで、地表下約80cmの古代の堆積層から一辺80cm以上のピットを検出したが、近代以降の木柱（電柱か）を伴う掘り込みに切られ、全体像は不明であった（第20図SP1）。また、国道用地のB～Dトレンチでは、遺構・遺物は存在しなかったが、古代の堆積層が良好に残存していた。

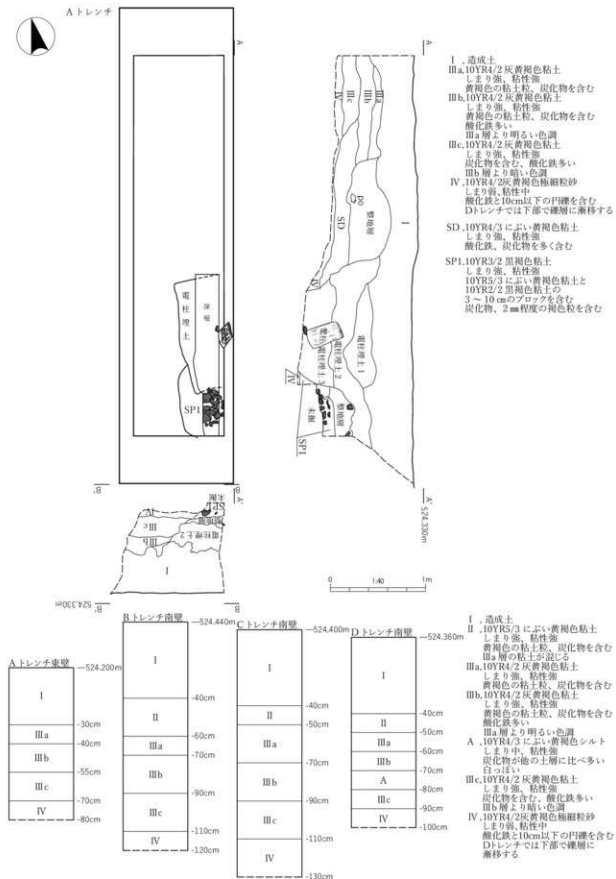
この結果から、住宅建設では埋蔵文化財に影響を与えることはないと考えられた。



第18図 明科廃寺推定区画図



第19図 明科廃寺試掘トレンチ配置図



第20図 明科廃寺試掘概要図



1 調査地近景 (北から)



2 調査区全体 (上が北)



3 A トレンチ東壁



4 A トレンチピット検出 (上が西)



5 A トレンチ東壁電柱



6 B トレンチ南壁

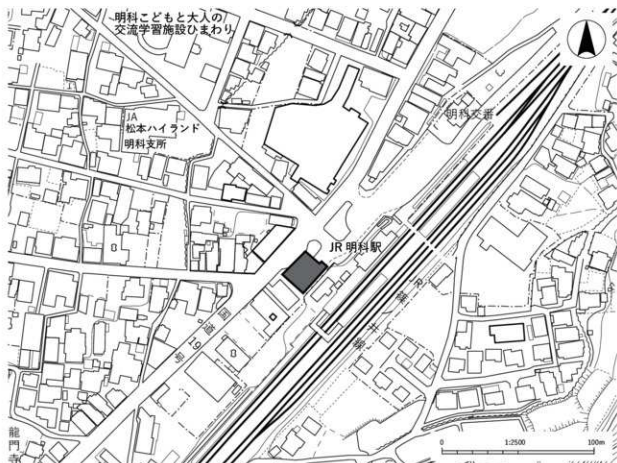


7 C トレンチ南壁



8 D トレンチ南壁

6 明科遺跡群県町遺跡（第1表■117）



第21図 県町遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市明科中川手3749番2	調査面積	14㎡
調査期間	令和3年(2021)1月6日	調査契機	道路
調査参加者	土屋和章、横山幸子、白居直之、田多井智恵		

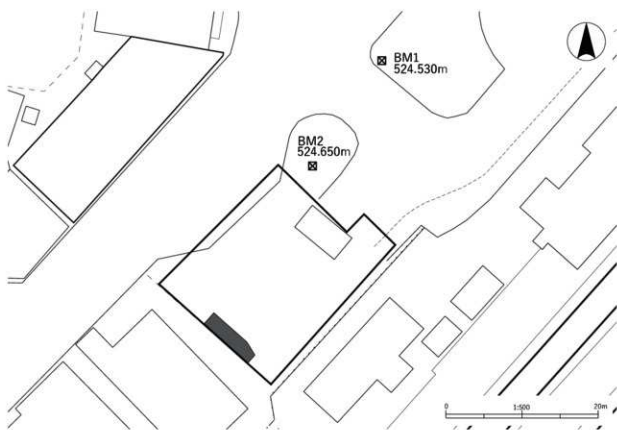
(1) 概要

明科遺跡群県町遺跡は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡は、これまでに発掘調査を実施した記録がない。

今回、駅前公園の駐車場整備に際し本調査の要否を判断するための試掘調査を実施した。なお、調査地は、インターロッキングにより舗装されていた。1か所のトレンチを設定し、地表下約80cmまで掘削したところ、地表下30cmまでの造成土と、アース線やガラス片を含む近現代の攪乱を受けた土層を確認した。自然堆積層は残存していなかった。中世以前の遺物は出土せず、遺構は検出できなかった。

上記の結果から、今回の調査地に明確な埋蔵文化財は存在せず、本調査は不要と判断した。

また調査地では、試掘調査後の土木工事に際し工事立会を実施した。電線地中化のための深度約130cmの掘削で確認できたのは、試掘調査と同様に攪乱を受けた土層のみで、レンガ片や針金のほか、2m以上の木材が含まれていた。



第22図 県町遺跡試掘トレンチ配置図



1. 造成土
2. 近現代の擾乱
アース線、ガラス片、陶磁器片を含む

第23図 県町遺跡試掘土層概念図



1 調査地近景（北東から）



2 調査地近景（南西から）



3 トレンチ北壁



4 トレンチ西掘（西から）



5 トレンチ東掘（東から）



6 現代の陶器片・ガラス片

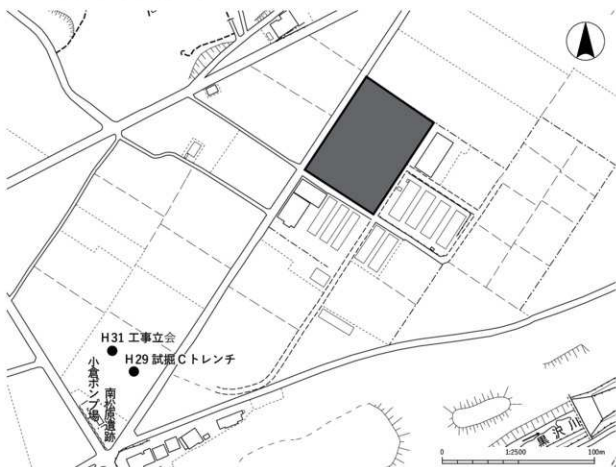


7 工事立会掘削（北東から）



8 工事立会掘削南壁

みなみまつばら
7 南松原遺跡 (第1表■128)



第24図 南松原遺跡試掘位置図

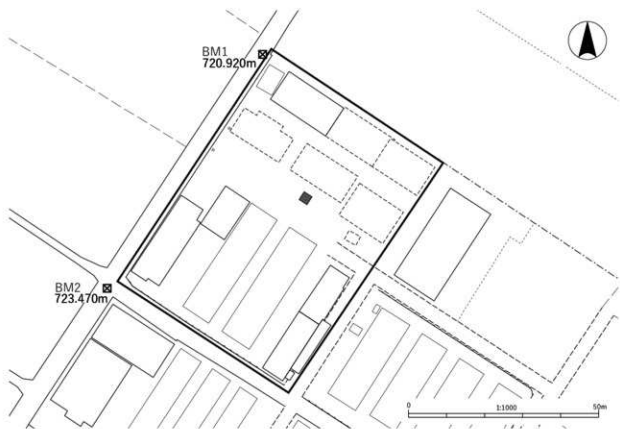
所在地	安曇野市三郷小倉6412番1	調査面積	6㎡
調査期間	令和3年(2021)2月4日	調査契機	工場
調査参加者	横山幸子、白居直之、田多井智恵		

(1) 概要

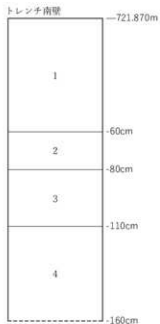
南松原遺跡は、黒沢川左岸の河岸段丘上に所在する縄文時代の集落跡である。この遺跡では、昭和45年(1970)に、三郷村教育委員会が発掘調査を実施し、縄文時代中期の集落跡を確認した(三郷村誌編集会編1980)。

今回は、工場の作業棟建設に際し予定箇所でトレンチを1か所設定し、試掘調査を実施した。建物基礎の予定掘削深度に合わせ地表下160cmまで掘削したところ、現代の攪乱の下位に自然堆積層が残存していた。このうち、第2層の粘土と第3層のシルトには炭化物が含まれている。第4層の礫層は上方細粒化し、最上部では基質であるシルトのみの層に漸移していた。遺構は検出できず、遺物も出土しなかった。

以上のとおり、調査地には埋蔵文化財は存在しないことから、本調査は不要であると判断した。



第25図 南松原遺跡試掘トレンチ配置図



第26図 南松原遺跡試掘土層概念図

- 1.現代の造成土
上部は駐車場造成の砕石で、下部はビニール紐、レンガ片など含む
下部にはコンクリートの建物基礎が存在
- 2.10YR2/2黒褐色粘土
しまり中、粘性強
1cm以下の炭化物、褐色粒子を少量含む
- 3.10YR3/3暗褐色シルト
しまり中、粘性強
1cm以下の炭化物を含む
10YR4/6褐色シルトの不定形のブロックを含む
1cm以下の磁器片を少量含む
- 4.10YR6/6明黄褐色礫
しまり弱、粘性強
最大径15cm、平均厚3cmの扉門～扉角礫を含む
基層はシルトで、基層支持
上方細粒化し、第3層直下では礫をほとんど含まない



1 調査地近景 (北東から)



2 調査地近景 (南西から)



3 トレンチ南壁 (白い点は降雪)



4 トレンチ完掘 (西から)

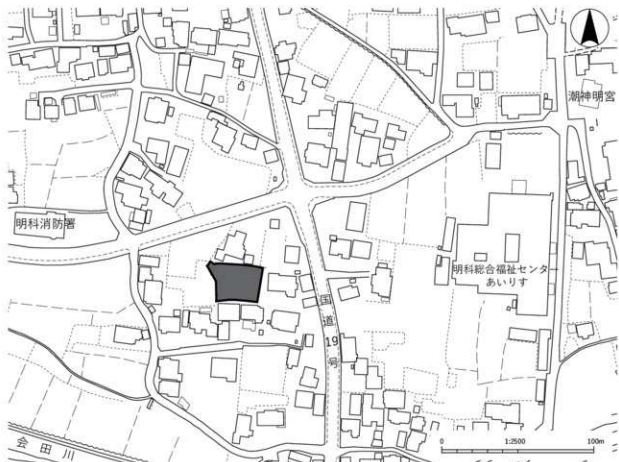


5 埋戻し後 (北から)



6 埋戻し後 (西から)

うしお うしおしんめいでうまゑ
 8 潮遺跡群 潮神明宮前遺跡 (第1表■131)



第27図 潮神明宮前遺跡試掘位置図

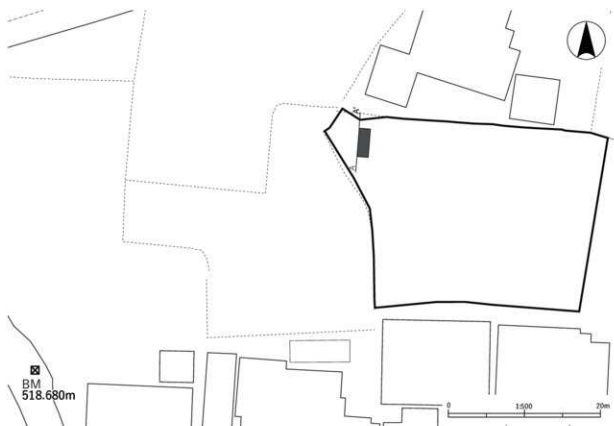
所在地	安曇野市明科東川手528番6外1筆	調査面積	5㎡
調査期間	令和3年(2021)2月10日	調査契機	太陽光発電施設
調査参加者	土屋和章、横山幸子、白居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

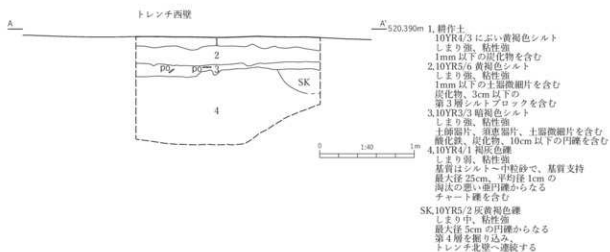
潮遺跡群潮神明宮前遺跡(以下、「潮神明宮前遺跡」とする。)は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに3次の発掘調査を実施し、古墳群及び弥生時代・古墳時代及び平安時代の集落跡を確認している(明科町教委2000・2005、安曇野市教委2019)。

太陽光発電施設建設に伴う浸透施設設置箇所について、記録保存のための発掘調査に先立ち試掘調査を実施した。調査の結果、第3層から土師器、須恵器の破片が出土した。トレンチ西壁で第4層を掘り込み、遺物片を含む土坑の断面を検出した。

上記の結果から、本件施工地内に埋蔵文化財が残存していることを確認したが、本件工事では浸透施設以外に調査可能な掘削はないため、本調査は不要と判断した。

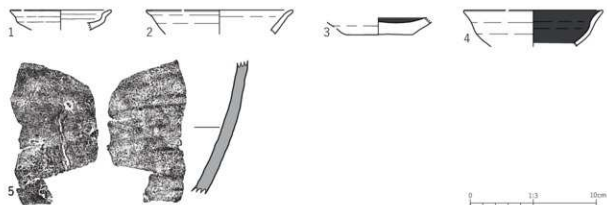


第28図 瀬神明宮前遺跡試掘トレンチ配置図



第29図 瀬神明宮前遺跡試掘セクション図

(2) 遺物



第30図 潮神明宮前遺跡試掘出土遺物



第31図 潮神明宮前遺跡試掘出土遺物写真

第2表 潮神明宮前遺跡試掘出土遺物観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴			備考			
									外面	内面	底部				
1	不明	第3層	土師器	器台	口縁部～ 体部上半	8.0	復	不明	—	1.6	残	ナデ	ナデ	不明	
2	不明	第3層	土師器	埴	口縁部～ 体部上半	11.6	復	不明	—	1.9	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	胎土に砂を 多く含む
3	不明	第3層	黒色土 器A	坏A	体部下半～ 底部	不明	—	5.2	完	1.3	残	ロクロナデ	ミガキ?	回転糸切り	底部厚1.0cm とやや厚い
4	不明	第3層	黒色土 器A	埴	口縁部～ 体部下半	11.0	復	不明	—	2.9	残	ロクロナデ	ミガキ	不明	
5	不明	第3層	陶器	壺	体部下半	不明	—	不明	—	10.6	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	中世以降

試掘で出土した土器のうち、5点を資料化した。1は、古墳時代前期の土師器器台で、口縁部は強く外傾し体部中ほどに明瞭な段を有する。また、器厚は薄く、精選された精緻な胎土である。2は、土師器埴である。口縁部は端部付近で強く外反し、体部は直線的に広がる。3は、黒色土器Aの坏Aの底部である。底部厚が1.0cmとやや厚めだが、底径は5.2cmと坏Aの範疇に収まる。4は、黒色土器Aの埴である。体部中ほどで弱く屈曲して立ち上がり、口縁部は外反する。5は、中世以降の陶器の体部破片で、ロクロ成形の後で内外面ともにナデを施している。



1 調査地近景 (北西から)



2 調査地近景 (南西から)



3 調査前 (西から)



4 調査前 (東から)



5 調査前 (南から)



6 トレンチ完掘 (西から)

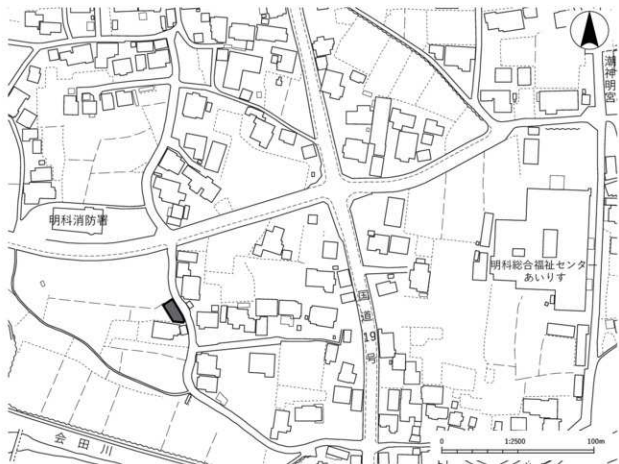


7 トレンチ西壁



8 トレンチ東壁

9 潮遺跡群潮神明宮前遺跡（第1表■146）



第32図 潮神明宮前遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市明科東川手263番1	調査面積	1㎡
調査期間	令和3年(2021)3月22日	調査契機	農業用倉庫
調査参加者	横山幸子、臼居直之、田多井智恵		

(1) 概要

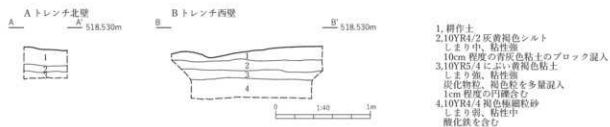
潮神明宮前遺跡は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに3次の発掘調査を実施し、古墳群及び弥生時代・古墳時代及び平安時代の集落跡を確認している（明科町教委2000・2005、安曇野市教委2019）。

事業地内で、トレンチ2か所（A・Bトレンチ）を設定し、試掘調査を実施した。地表下50cmまで掘削したところ、厚さ約15cmの耕作土の下位にシルト層、粘土層、極細粒砂層を確認した。第3層の粘土には、炭化物が含まれていた。遺物は、第1層から土師器・須恵器片を数点検出したが、遺構に関連する状況はなかった。第2層以下は安定した堆積層で遺構は検出できなかった。

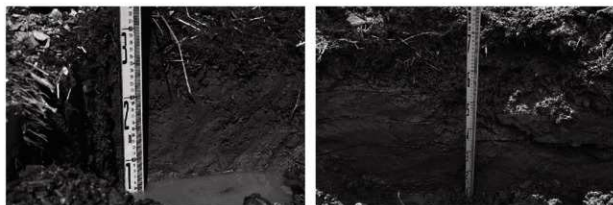
以上のとおり、調査地に遺構が存在しないことから、本調査は不要と判断した。



第33図 潮神明宮前遺跡試掘トレンチ配置図



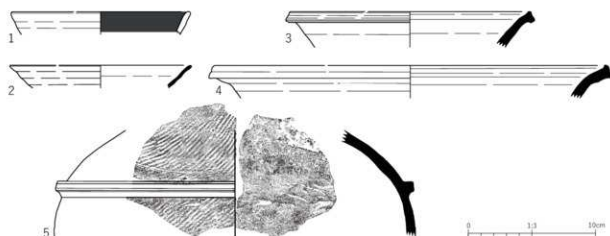
第34図 潮神明宮前遺跡試掘セクション図



1 A トレンチ北壁

2 B トレンチ西壁

(2) 遺物



第35図 潮神明宮前遺跡試掘出土土器



第36図 潮神明宮前遺跡試掘出土土器写真

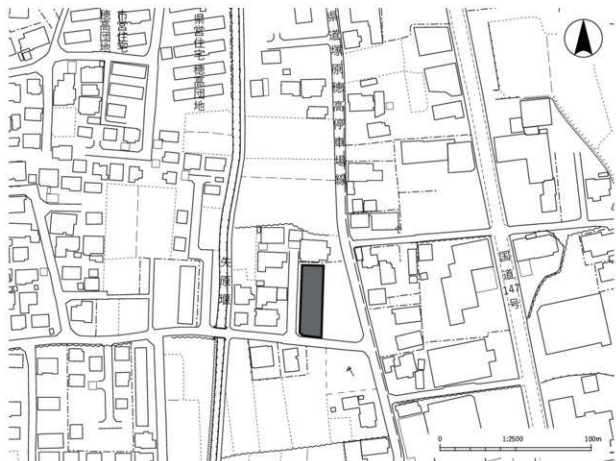
第3表 潮神明宮前遺跡試掘出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴			備考			
									外面	内面	底部				
1	不明	排土	黒色土器 A	坏 A	口縁部～ 体部上半	14.0	復	不明	—	1.8	残	ロクロナデ	ミガキ	不明	
2	不明	排土	須恵器	坏 A	口縁部～ 体部上半	14.2	復	不明	—	1.8	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
3	不明	排土	須恵器	壺	口縁部～ 頸部	19.0	復	不明	—	2.7	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	胎土に長石 を若干含む
4	不明	排土	須恵器	甕	口縁部～ 頸部	30.9	復	不明	—	2.6	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
5	不明	排土	須恵器	甕 D	体部上半～ 体部下半	不明	不明	—	不明	8.3	残	タタキ+ 横ナデ	粗いナデ	不明	凸帯断面は 四角形

試掘で出土した土器のうち、5点を資料化した。1は、黒色土器 A の坏 A の口縁部破片である。黒色土器 A が食膳具の主体となるのは、松本平古代 7・8 期以降とされる。2 は、須恵器の坏 A で、器厚は薄く、口縁部が大きく開き気味になる器形である。3・4 はいずれも須恵器の口縁部で、3 は壺、4 は甕である。5 は、体部上半に凸帯を有する須恵器甕 D である。凸帯の断面形は整った四角形となる。須恵器甕 D は、松本平古代 5～9 期に存在し、断面四角形や台形の凸帯は 7～8 期に多い傾向にある。

以上の様相から、今回の試掘出土土器は松本平古代 7～8 期に比定できる。

10 ヤツクち ハツ口遺跡 (第1表■148)



第37図 ハツ口遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高平原960番1の一部	調査面積	46㎡
調査期間	令和3年(2021)3月23日	調査契機	個人住宅
調査参加者	土屋和章、横山幸子、白居直之、田多井智恵、山下泰永		

(1) 概要

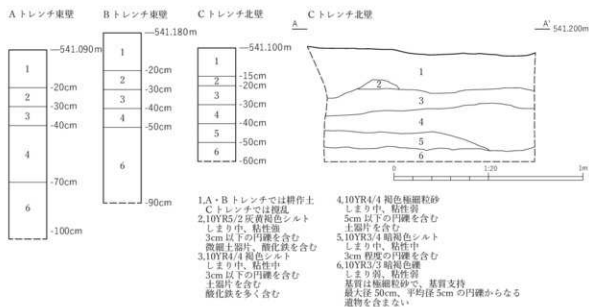
ハツ口遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する奈良時代～中世の集落跡である。この遺跡では、これまでに2次の発掘調査を実施し、当該期の遺構・遺物を確認している(安曇野市教委2010)。

今回は個人住宅建設(表層改良)予定箇所で3か所のトレンチ(A～Cトレンチ)を設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、表土下位にはシルトが良好に残存していた。このうち第3層は、摩耗した土器片(平安時代)を少量含むため、トレンチを拡張して遺構の有無を精査したが、遺構の存在は確認できなかった。出土土器は摩耗が激しい小破片であったことから、二次的な堆積土中への混入と判断した。また、深度50～70cmで礫(第6層)となるため、工事深度内で第6層以深に遺構等がないことも確認した。

以上の結果から、本件工事に際し本調査は不要と判断した。

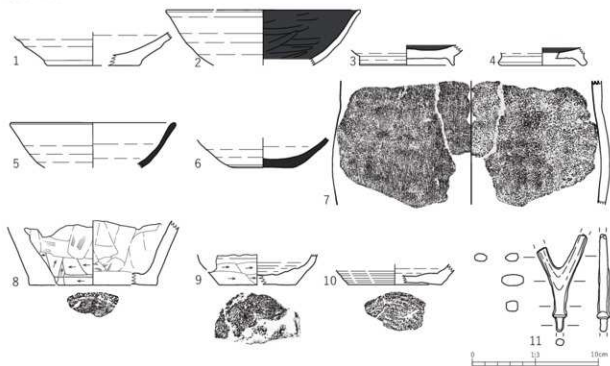


第38図 ハツ口遺跡試掘トレンチ配置図



第39図 ハツ口遺跡試掘土層断面図

(2) 遺物



第40図 ハツロ遺跡試掘出土遺物



第41図 ハツロ遺跡試掘出土遺物写真

試掘で出土した遺物11点を資料化した。1は、土師器鉢で内面に付着物がある。2～4は、黑色土器Aで、2は坏A、3・4は碗とした。5・6は、軟質須恵器で内外面ともに黒斑を有する。7・8は、土師器甕である。9・10は、土師器小型甕で、9は外面の底部付近を削る。11は、雁股鎌である。

今回の出土遺物の時期は、黑色土器A坏A・碗と軟質須恵器坏Aが見られることから、松本平古代8期と考えられる。

第4表 ハツコ遺跡試掘出土遺物観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴			備考		
									外面	内面	底部			
1	Bトレンチ 西拡張区	第4層	土師器	鉢	体部下半～ 底部	不明	7.4	復	27	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内面に付着物あり
2	Bトレンチ	第4層	黒色土器A	環A	口縁部～ 体部下半	15.4	復	不明	45	残	ロクロナデ	ミガキ+ 黒色処理	不明	
3	Cトレンチ	第4層	黒色土器A	碗	体部下半～ 底部	不明	7.6	復	16	残	ロクロナデ	ミガキ+ 黒色処理	不明	底部外面の摩擦が 激しく調査不明
4	表探	不明	黒色土器A	碗	体部下半～ 底部	不明	7.0	復	14	残	ロクロナデ	ミガキ+ 黒色処理	回転糸切り	
5	Cトレンチ	第4層	軟質須恵器	環A	口縁部～ 体部下半	13.1	復	不明	31	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	内外面とも黒斑 あり
6	Cトレンチ	第4層	軟質須恵器	環A	体部下半～ 底部	不明	5.0	復	24	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内外面とも黒斑 あり
7	Cトレンチ	第4層	土師器	甕B	体部上半～ 体部下半	不明	不明	不明	98	残	ハケメ	ナデ	不明	
8	表探	不明	土師器	甕	体部下半～ 底部	不明	10.0	復	5.1	残	ケズリ+ ナデ	ナデ	ナデ	
9	Bトレンチ 西拡張区	第4層	土師器	小型甕C	体部下半～ 底部	不明	6.0	復	24	残	ロクロナデ +ケズリ	ロクロナデ	ケズリ	
10	表探	不明	土師器	小型甕D	体部下半～ 底部	不明	7.4	復	16	残	カキメ	ロクロナデ	回転糸切り	

No.	遺構	層位	器種	材質	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
11	Bトレンチ 西拡張区	第4層	鉄鏝	鉄		7.7	4.0	1.1	19.3 雁股鏝



1 調査地近景 (北から)



2 Cトレンチ完掘 (北から)

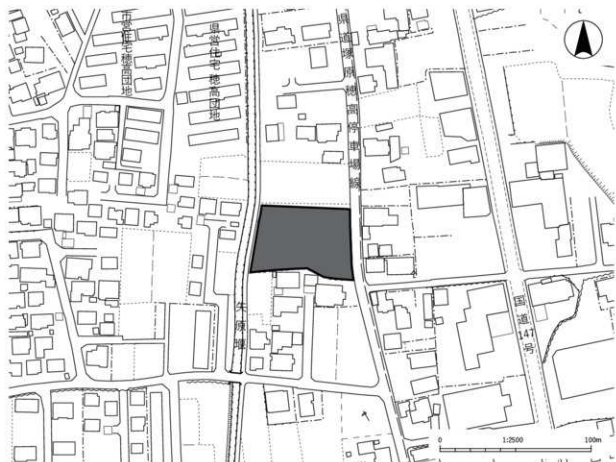


3 Cトレンチ北壁



4 A・Bトレンチ間拡張区 (西から)

11 三枚橋遺跡 (第1表■155)



第42図 三枚橋遺跡試掘位置図

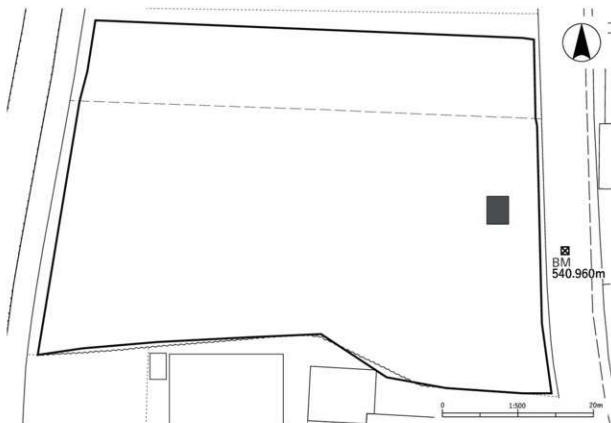
所在地	安曇野市穂高柏原962番5外2筆	調査面積	10㎡
調査期間	令和3年(2021)3月29日	調査契機	宅地造成
調査参加者	土屋和章、横山幸子、白居直之、田多井智恵、望月裕子、山下泰永		

(1) 概要

三枚橋遺跡は、鳥川扇状地扇央に所在する弥生時代～中世の集落跡である。この遺跡では、これまでに7次にわたる発掘調査を実施し、弥生時代・奈良時代を中心とした遺構・遺物を確認している(安曇野市教委2010・2020)。

今回は、宅地造成のうち浸透施設設置箇所にトレンチを設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、表土下位にシルトが良好に残存していた。このうち第5層は、摩耗した土器微細片(時代不明、採取不可)をごく少量含むが、遺構等はない。第6層以下は礫・砂礫で、埋蔵文化財は含まれていない。

このため、本件工事に際し本調査は不要と判断した。



第43図 三枚橋遺跡試掘トレンチ配置図

トレンチ南壁	—541.090m
1	
2	-10cm
3	-15cm
4	-20cm
	-30cm
5	
	-50cm
6	
	-70cm
	-110cm
8	
	-140cm
9	
	-160cm

第44図 三枚橋遺跡試掘土層概念図

- 1.耕作土
- 2.10YR4/2灰黄褐色シルト
しまり強、粘性中
灰化物、1cm以下の円礫を少量含む
- 3.10YR4/3に黄褐色シルト
しまり強、粘性中
酸化鉄を多く含む
- 4.10YR4/2灰黄褐色シルト
しまり強、粘性中
上部に酸化鉄が濃集する
2cm以下の円礫を含む
- 5.10YR4/4褐色粘土
しまり強、粘性強
3cm以下の円礫を微量含む
灰化物、微細土溜片がごく少量混入
- 6.10YR4/3に黄褐色礫
しまり弱、粘性弱
最大径10cm、平均径1cmの円礫からなる
基質は中粒砂で、基質支持
- 7.10YR4/4褐色細粒砂
しまり弱、粘性中
全体的に均質
- 8.10YR2/2黒褐色極細粒砂
しまり弱、粘性中
10cm以下の円礫を多量含む
- 9.礫
しまり弱、粘性弱
最大径20cm、平均径3cmの円礫からなる
基質は砂で基質支持



1 調査地近景（北から）



2 調査地近景（西から）



3 トレンチ完掘（北から）



4 トレンチ完掘（西から）



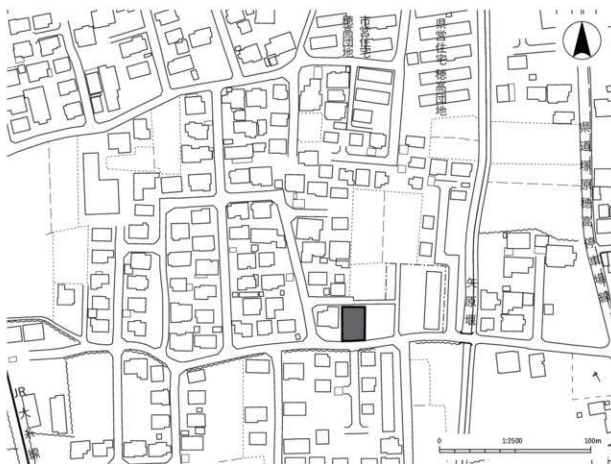
5 トレンチ南壁



6 埋戻し後（北から）

第3章 工事立会

1 おっほり 追堀遺跡 (第1表●95)



第45図 追堀遺跡工事立会位置図

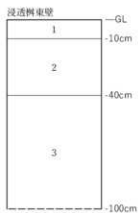
所在地	安曇野市穂高柏原1656番1	調査契機	宅地造成
調査期間	令和2年(2020)10月29日	調査担当者	横山幸子

(1) 概要

追堀遺跡は、烏川扇状地扇尖に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、平成29年(2017)度に第1次発掘調査を実施しているほか、複数回の試掘・工事立会で当該期の遺物の出土を確認している。

本件工事での工事立会は、敷地中央付近の浸透柵設置に際し実施した。浸透柵設置では、深度約100cmの掘削を実施したところ、耕作土の下位にシルト、礫が堆積していた。このうち第3層とした礫層から、須恵器破片が数点出土した。浸透柵設置箇所以外に、敷地外周の擁壁設置箇所でも遺構・遺物の検出を試みたが、遺物は出土していない。

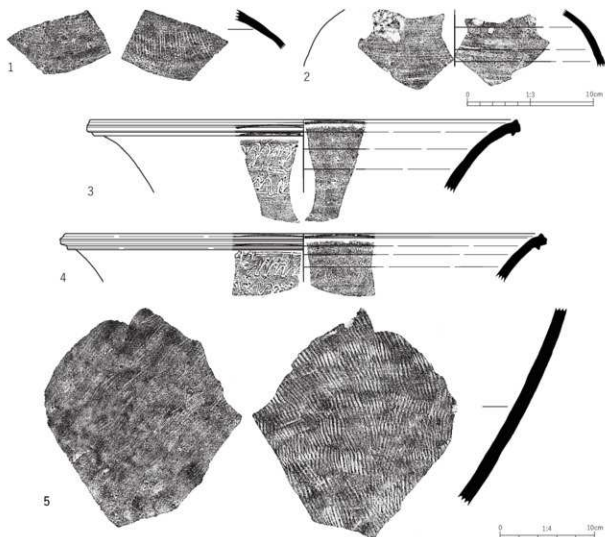
上記の結果から、本件施工地周辺には埋蔵文化財が良好に残存している可能性が高いため、今後の土木工事では注意が必要である。



第46図 追堀遺跡工事立会土層概念図

1. 耕作土
2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
しまり強、粘性中
上部に酸化鉄が濃集するが、その他は均質
3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
しまり弱、粘性弱
基質は第2層と同じで、基質支持
最大径20cm、平均径2cm程度の垂門礫からなる
応込物、遺物を含む
第3層の掘出土から須恵器破片を採集

(2) 遺物



第47図 追堀遺跡工事立会出土土器



第48図 追堰遺跡工事立会出土土器写真

第5表 追堰遺跡工事立会出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口徑 (cm)			器高 (cm)	技法の特徴			備考		
						口徑 (cm)	底徑 (cm)	残		外面	内面	底部			
1	不明	第3層	須恵器	長頸壺B	体部上半	不明	不明	—	3.1	残	ロクロナデ+短沈線	ロクロナデ	不明	胎土が緻密で白みがる	
2	不明	排土	須恵器	壺	体部上半	不明	不明	—	4.5	残	カキメ	ロクロナデ	不明	外面に白色斑点が多い	
3	不明	排土	須恵器	甕	口縁部~頸部	45.0	復	不明	—	7.7	残	ロクロナデ+波状文	ロクロナデ	不明	No.4と同一個体か
4	不明	排土	須恵器	甕	口縁部~頸部	50.2	復	不明	—	5.1	残	ロクロナデ+波状文	ロクロナデ	不明	No.3と同一個体か
5	不明	第3層	須恵器	甕	体部下半	不明	不明	—	20.8	残	タタキ	当具痕+ナデ	不明		

工事立会で出土した土器5点を資料化した。5点とも須恵器である。1は、体部上半と下半の境界で強く屈折し、低い体部にラッパ状に開く口頸部を付する器形となる長頸壺Bの体部上半破片である。器厚は4～5mmと薄く、胎土は緻密でやや白みがる。2は、壺の体部上半である。3・4は、甕の口縁部で、これら2点は同一個体の可能性が高い。頸部外面には横走沈線間に櫛描波状文が2段にわたって施される。5は、甕の体部下半の破片である。

1の長頸壺Bは、松本平では古代2～4期に出土し、中央自動車道関係での出土資料は全て美濃須衛産と考えられている（小平1990）。このため、今回の工事立会出土須恵器群もこの時期に帰属する可能性が高い。



1 施工地近景（南東から）



2 北辺擁壁施工状況（西から）



3 浸透樹施工状況（南から）



4 浸透樹掘削東壁



5 遺物出土状況



6 遺物出土状況

2 明科遺跡群本町遺跡（第1表●130）



第49図 本町遺跡工事立会位置図

所在地	安曇野市明科中川手3929番1	調査契機	個人住宅
調査期間	令和3年(2021)1月7日～令和3年(2021)2月4日	調査担当者	土屋和章、横山幸子

(1) 概要

本町遺跡は、犀川右岸の段丘上に所在する弥生～平安時代の集落跡である。

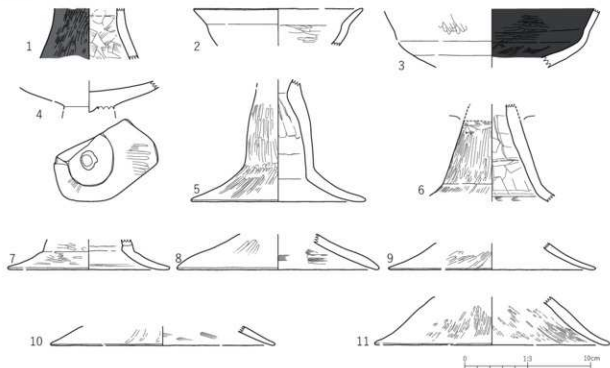
本件工事立会は、個人住宅建設の基礎掘削に際して実施した。住宅基礎の南東隅付近で、第3層の下位から古墳時代の土器片が多数出土した。この土層は、土器以外に炭化物等を包含するため遺構覆土と考えられるが、工事での掘削深度より深く掘り下げての調査はしていない。また、住宅基礎東辺の第3層から、年代不明の刀が出土した。令和2年(2020)6月18日に市道改良に先立ち隣接地で実施した試掘(本書第2章3)の結果では、第1～3層は、土器小破片の他に近代のレンガ等が多く混入する造成土であることが判明しており、本件施工地全体に広がっている。

上記の結果から、本件施工地では第1～3層が全体的に存在するが、部分的に古墳時代の遺構覆土の可能性が高い土壌も堆積しており、今後の土木工事では注意が必要である。

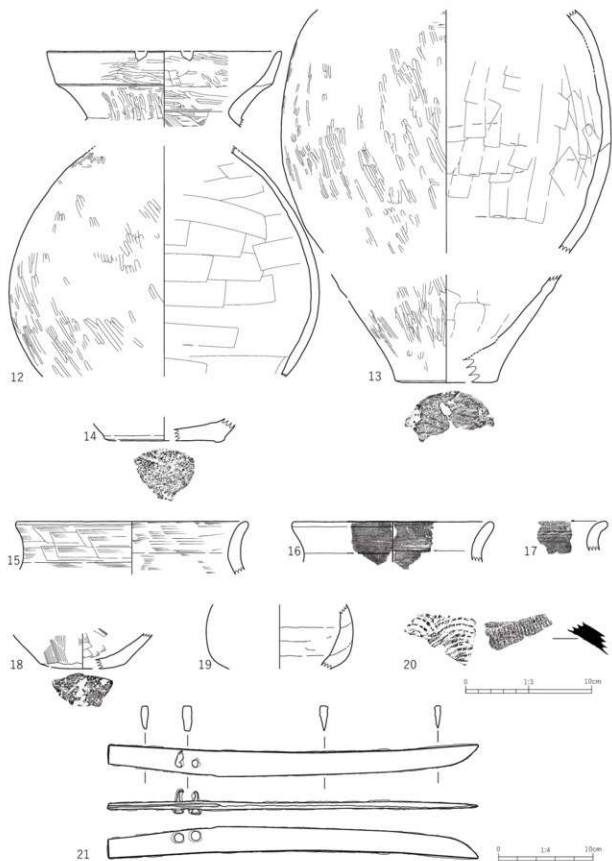


第50図 本町遺跡工事立会概要図

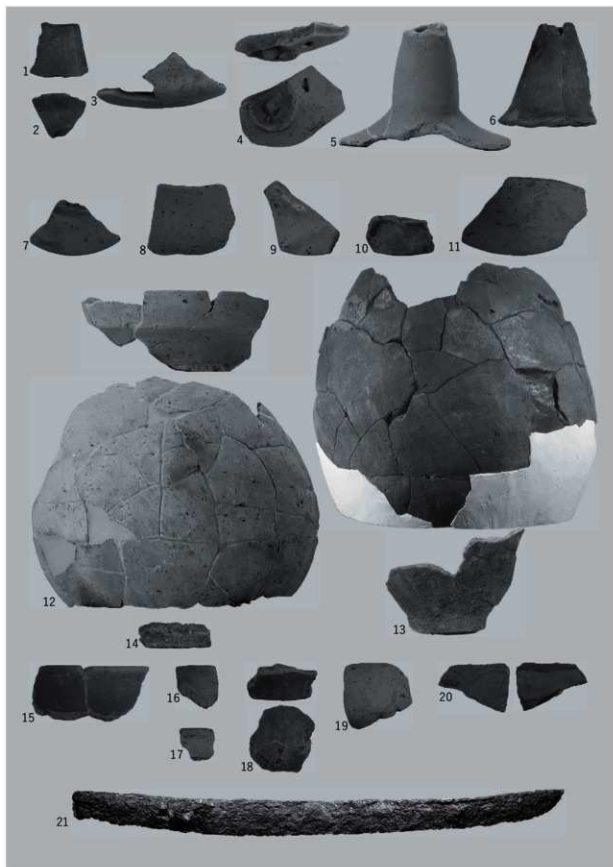
(2) 遺物



第51図 本町遺跡工事立会出土遺物1



第52図 本町遺跡工事立会出土遺物 2



第53図 本町遺跡工事立会出土遺物写真

第6表 本町遺跡工事立会出土遺物観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)		底径 (cm)		器高 (cm)		技法の特徴			備考
						不明	—	不明	—	残	残	外面	内面	底部	
1	排土	不明	弥生土器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	4.1	残	ミガキ+赤彩	オサエ+工具ナデ	—	
2	排土	不明	土師器	坏	口縁部～体部上半	13.4	復	不明	—	2.9	残	ナデ+ミガキ	ヨコミガキ	不明	
3	排土	不明	黑色土器	坏	体部上半	不明	—	不明	—	4.7	残	ミガキ	ミガキ+黒色処理	不明	非ロクロ坏 内面放射状ミガキ
4	遺構	不明	土師器	高坏	体部下半	不明	—	不明	—	2.5	残	ミガキ	ミガキ	不明	内面粗れ
5	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	9.7	残	ミガキ	絞+ナデ	—	脚部 裾径13.8cm (実測) 輪積痕残る
6	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	7.7	残	ミガキ	絞+ナデ	不明	
7	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	2.4	残	ミガキ	ハケメ	—	脚部 裾径12.8cm (復元)
8	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	2.8	残	ミガキ	ナデ	—	脚部 裾径16.0cm (復元)
9	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	2.1	残	ミガキ	ナデ	—	脚部 裾径16.4cm (復元)
10	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	1.5	残	ミガキ	ハケメ	—	脚部 裾径17.8cm (復元)
11	遺構	不明	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	3.8	残	ミガキ	ミガキ	—	脚部 裾径18.6cm (復元)
12	遺構	不明	土師器	壺	口縁部～体部下半	18.6	復	不明	—	24.3	残	ナデ+ミガキ	ハケメ+ナデ+ミガキ	不明	
13	遺構	不明	土師器	壺	体部上半～底部	不明	—	8.0	復	27.9	残	ミガキ	ナデ	ミガキ	
14	遺構	不明	土師器	壺	体部下半～底部	不明	—	9.4	復	1.9	残	不明	不明	不明	
15	排土	不明	土師器	甕	口縁部～頸部	18.4	復	不明	—	4.2	残	横ナデ	横ナデ	不明	
16	遺構	不明	土師器	甕	口縁部～頸部	16.0	復	不明	—	3.2	残	横ナデ	横ナデ	不明	
17	排土	不明	土師器	甕	口縁	不明	—	不明	—	2.6	残	横ナデ	横ナデ	不明	
18	排土	不明	土師器	甕	体部下半～底部	不明	—	6.8	復	2.8	残	ハケメ	ナデ	ナデ	
19	排土	不明	土師器	鉢	体部下半	不明	—	8.0	復	5.1	残	ナデ	ナデ	ナデ	
20	排土	不明	須恵器	甕	体部上半	不明	—	不明	—	2.6	残	タタキ+横ナデ	当具痕	不明	頸部付近

No.	遺構	層位	器種	材質	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
21	東壁 カクラン	—	短刀	鉄	39.2	2.8	0.9	333.5	目釘厚2.6cm

工事立会で出土した遺物21点を資料化した。出土遺物は、弥生時代後期・古墳時代中～後期の土器、近世以降の太刀を加工した短刀のほか、近代の陶磁器小片が出土した。このうち古墳時代中期にあたる5世紀中頃～後半に属する壺と高坏等の土器がまとめて検出されたことから（4～14）、当該期の遺構の一部が残されていた可能性がある。

1は、弥生時代後期後半の小型高坏の脚部である。外面にはミガキと赤彩が施され、器厚が0.7cmと薄い精緻な作りである。同時期の土器としては、赤彩された壺の胴部破片が検出された。

2・3は、古墳時代中・後期に属する埴形の坏である。2は、口縁端部がやや外反し、頸部が緩やかに屈曲して底部接地面が小さい埴形状の坏である。内外面に精緻なミガキと、口縁端部外面にはナデが施され、器厚は0.5cmと薄い作りである。坏胴部が膨らまない形状であることから、古墳中期の一括遺物と同時期とみられる。3は、口縁端部を欠損するが器形の約3分の1が残存する。口縁部が内弯気味に開き、屈曲部から胴部がやや膨らみ、埴状に浅く底部にいたる形状である。内面は横ミガキとともに入念な黒色処理が施されている。胴部に比べ口縁部が長い坏形状で、黒色処理が緻密であることから古墳時代後期後半の時期に属する。

4～11は、高坏の一部であり、4が坏底部、5・6が脚上部から裾部、7～11が裾部から端部である。口縁部及び坏上半部を確認できる資料はないが、8点ともに類似する形状と判断した。坏部の形状は、坏底部が水平となり、屈曲して口縁部が外傾して開き、断面台形状の器形が想定される。脚部は中空で、上部は中央が張り気味の筒形円柱形となり、裾部が屈曲して開く形態の5と、脚部が「ハ」字に直線的に開き裾部が緩く屈曲する形態の6の2種類がある。7～10の裾部は5の形状、11の裾部は6の形状に復元される。4の坏底部には中空脚に坏部を上面から接合した粘土と粘土突起が残され、5の脚部には輪積み痕、また5・6の内面には絞り痕と縦・横位のナデ調整が残されている。7～9の裾部器面は一部摩滅もあったが、外面には縦方向の緻密なミガキが施され、10・11には内面に放射状のミガキが残るなど精緻な作りである。

12～14は壺で、12・13ともに接合部位がないため、同一個体であるが部位別に図示した。12は、口縁部約3分の1が残存し、口縁径20cm以下の中型の二重口縁壺である。口縁部は、外部有段面が明瞭で、内面は稜をもたず緩やかに外傾する形態をとり、頸部上部に口縁粘土帯を付加して接合している。胴部は、下半に最大径をもつ卵球形となる。外面調整は、口縁部横方向、頸部縦方向、胴部縦・斜め方向のミガキが施され、内面は口縁・頸部ともにハケ目調整の後、ミガキ・ナデが施され、胴部はハケ調整が残っている。胴部の器厚が0.5cm以下と薄く、精選された胎土で丁寧な作りである。13は口縁部を欠損するが底部・胴部とも約3分の1が残存する。底径8.0cmで、胴部の残存高が27cm以上あることから胴部最大径を中位にもつ球形の大形壺と推定される。外面調整は、縦方向の粗いミガキ、内面はハケナデが施されて、底面もミガキが残っている。14は摩滅が著しく調整が不明であるが、底部6分の1が残存する、底径9.4cmの大形壺と推定される。13・14の胎土は1mm大の砂礫を多く含む胎土で、ミガキ調整も粗雑であることから、12の二重口縁壺と異なる短口縁の広口壺であろうと思われる。

15～18は甕で、15～17は口縁部、18は底部の破片である。全体形状を確認できるものはないが、頸部が屈曲する球胴形態と思われる。15～17の口縁部の内外面調整は横ナデが施され、端部の形状は丸く仕上げられている。口径が20cm以下であることから中型の甕である。18は、ハケ調整が施され底部縁辺まで及び、底部はやや湾曲する不安定な形状であり、種子の圧痕が観察されている。甕の胎土は、いずれも1～2mm大の砂礫粒を含んでいる。

19は、胴下半部が約6分の1残存する鉢もしくは小型壺の一部である。胴部に丸味をもち底部が緩や

かに弯曲する器形であり、器厚は1cm前後で輪積み痕が観察される。胎土は12の壺と類似し、比較的精選された粘土である。

20は、須恵器甕の胴部上半の破片である。外面は平行タタキ後に横方向のナダが確認でき、内面には当て具痕が明瞭に残されている。この他に須恵器を数片検出したが、いずれも甕で古墳時代後期以降の所産である。

21は、推定長が80cmに及ぶ太刀で、切先から39.2cmを折損した後に転用した短刀である。棟区、刃区とも確認されず、茎尻となる端部から7.6cmと9.6cmの刃部中央に目釘が残る。目釘穴の間隔は2.0cmである。全長39.2cmの短刀として、切先から27.0cmを刃部、残りの12.2cmを茎として使用したものと推定できる。目釘は丸釘であり、頭が径約1.0cm、長さ約3.0cmで、先端が丸く欠損している。茎には適当な木質柄を装着していたことが予想される。この状況から本遺物は、近代に太刀を短刀に造り替えて転用し、破棄したものと判断した。

今回の工事立会では、西隣する龍門淵遺跡からこれまでに出土している弥生時代後期～古墳時代前期の赤彩壺、小型高坏、佛描文の甕と古墳中～後期の坏、高坏等と同時期の土器を検出した（明科町史編纂会編1984）。龍門淵遺跡では土器の他に鋸歯文様が刻まれた紡錘車形石製品などが検出され、祭祀関連遺構としての評価がなされている。今回の工事立会で出土した土器は5世紀代の高坏を主体とする土器組成であり、龍門淵遺跡とのかかわりが注目される。また安曇野市内では遺構・遺物検出の稀少な時期でもある。



1 住宅基礎掘削南壁



2 遺物出土状況（住宅基礎掘削東壁）



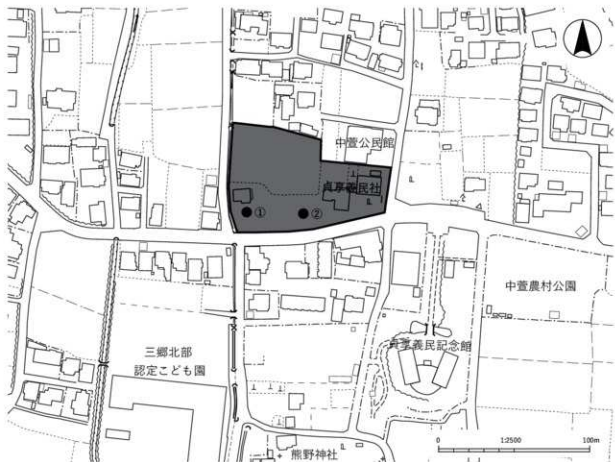
3 地下室掘削遠景（西から）



4 地下室掘削近景（西から）

第4章 史跡の現状変更等

1 長野県史跡 ただかすけたくあと 多田加助宅跡



第54図 多田加助宅跡調査位置図

所在地	安曇野市三郷明盛3334番2	調査面積	① 5㎡/② 5㎡
調査期間	①令和2年(2020)6月23日 ②令和3年(2021)3月15日～3月19日	調査契機	①上水道管敷設 ②切株撤去
調査参加者	中谷高志、土屋和章、横山幸子、白居直之、田多井智恵、望月裕子、宮下智美、寺島俊郎		

(1) 概要

多田加助宅跡は、昭和35年(1960)2月11日に長野県史跡に指定された。多田加助は真享騒動の中心人物であり、この史跡は多田加助の居宅が存在したとされる場所である。

令和2年度は、この史跡内で、①上水道管敷設、②切株撤去の2件の現状変更が行われ、これらに際し安曇野市教育委員会が土層観察・記録作成を実施した。

(2) 上水道管敷設にかかる調査 (第56図)

上水道管敷設に際し、工事立会を実施した。この調査位置等は、第54図に①で示した。①では、住宅の上水道管敷設のため延長10.9m、幅0.5m、深度0.8mの掘削を実施した。掘削には建設用重機を使用し、掘削範囲外に影響を与えないように配慮した。掘削範囲では、2か所の攪乱のほか、近現代の住宅に付属した外便所の基礎を確認した。また、掘削範囲南端付近では、掘削底面に砂の堆積を確認した。この地点は、江戸時代の絵図では堀が描かれており、今回確認した砂は堀の堆積物である可能性が高い。

(3) 切株撤去にかかる調査 (第57～58図)

土堤[※]上のアカマツが枯損し倒伏したため、切り株を撤去し埋戻した。この調査位置等は、第54図に②で示した。倒伏したアカマツの樹幹は令和2年(2020)10月に撤去したが、切り株は残置し令和3年(2021)3月9日に安曇野市教育委員会職員立会いのもと建設用重機を使用して撤去した。撤去した箇所は即日埋戻しをせず、3月15～19日に記録作成をした後、人力で埋戻した。

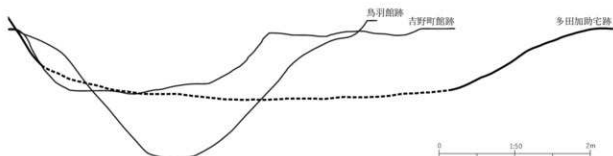
記録作成のための調査では、約5㎡のトレンチを設定して土層の確認をした。この結果、堀西側の土堤裾には木造構造物が存在することがわかった。この構造物は、銅線と共存するため設置されたのは近代以降と判断できる。

また土堤の土層には、第1段階：地山・基底部構築(第11～18層)、第2段階：本体構築(第6～10層)、第3段階：本体の崩落・植生の影響(第3～5層)、第4段階：木造構造物設置(第1～2層)の4段階の変遷が認められた。第17層からは土師器または軟質須恵器の坏の小破片が出土したため、この層の形成は平安時代以降と推定できる。第11層下位では、ピットを確認したが、出土遺物が無く構築時期は不明である。また、第3・4段階の層には近現代以降の人工物が包含される。

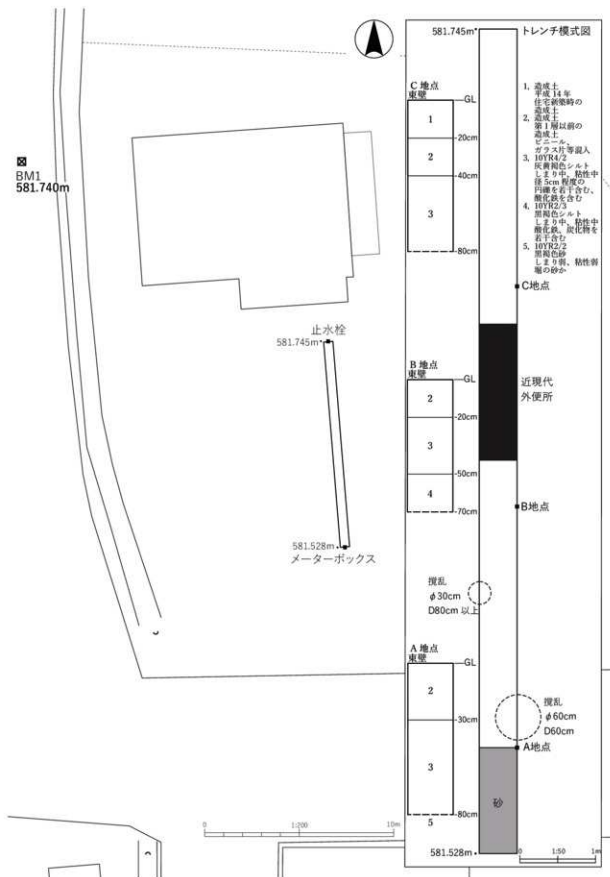
現存する堀の規模について、安曇野市内において発掘調査で実測されている吉野町館跡及び鳥羽館跡よしののまじりかたもとと多田加助宅跡とばやかたの堀と比較するため、エレベーション実測を実施し、結果を第55図に示した(豊科町教委1992・1994)。

註

※ 元治元年(1864)～慶応2年(1866)作成とされる絵図には、調査地と考えられる土の高まりを「土堤」と表記しているため、この報告でも「土堤」を採用する(三郷村誌編纂会編1980、三郷村誌編纂委編2006)。



第55図 堀の規模の比較



第56図 ①上水道管敷設にかかる調査概要図



1 ①施工状況（北から）



2 ①施工状況（南から）



3 ①A地点東壁



4 ①B地点東壁



5 ①B・C地点間便槽



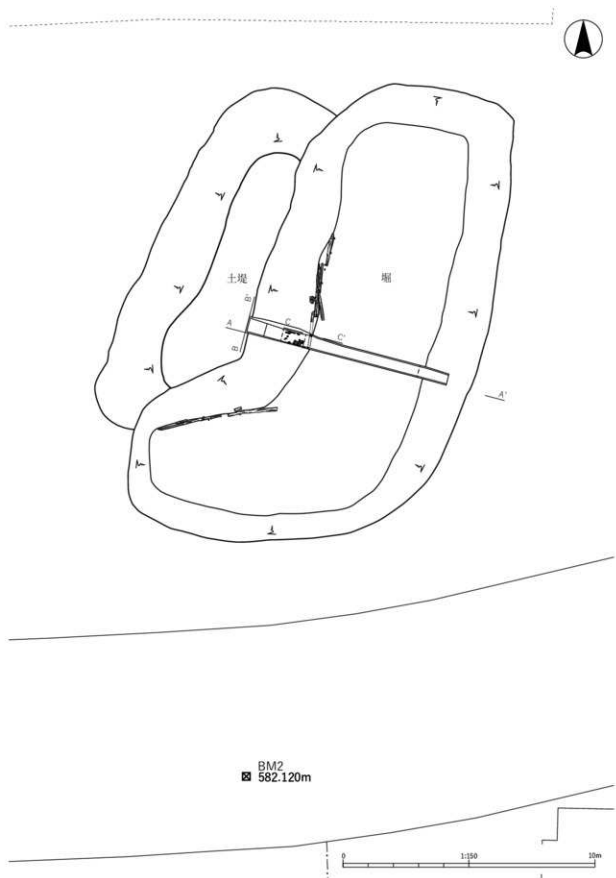
6 ①C地点東壁



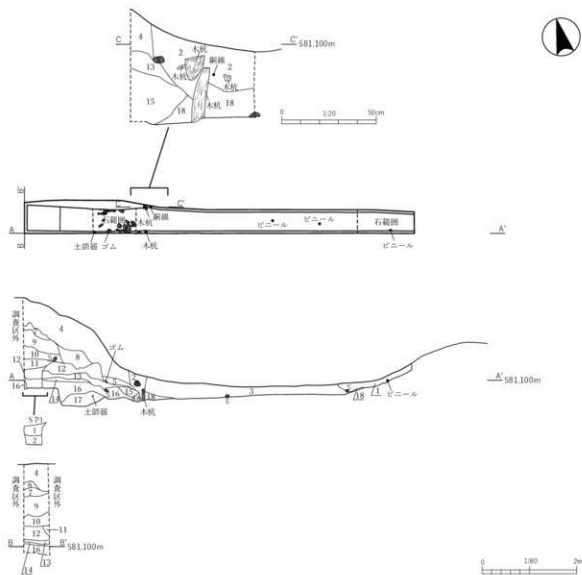
7 ①埋戻し後（北から）



8 ①埋戻し後（南から）



第57図 ②切株撤去にかかる調査平面図



- 1.10YR3/3 暗褐色粘土、しまり弱、粘性強
3～5cmの円礫を多く含む、ビニール片を含む
- 2.10YR3/3 暗褐色細粒砂、しまり弱、粘性弱
10cm程度の円礫を含む、ビニール紐、銅線を含む
下部に杭、板あり、杭設置時の堀への堆積土
- 3.10YR4/3 に近い黄褐色細粒砂、しまり弱、粘性弱
10cm以下の円礫、ビニール片を含む
- 4.10YR3/4 暗褐色細粒砂、しまり弱、粘性弱
5cm程度の円礫を少量含む
表土のためマツ、ササ等の植物根多い
- 5.10YR3/1 黒褐色シルト、しまり中、粘性中
3cm以下の円礫、板ゴム片を含む
- 6.10YR3/3 暗褐色極細粒砂、しまり弱、粘性弱
2mm程度の円礫を含む、植物根多い、第8層に似る
- 7.10YR3/2 黒褐色シルト、しまり弱、粘性中
3cm程度の円礫を少量含む、植物根多い、酸化鉄含む
- 8.10YR3/3 暗褐色シルト、しまり弱、粘性中
1cm程度の円礫を少量含む、植物根多い、第6層に似る
- 9.10YR4/3 に近い黄褐色シルト、しまり弱、粘性中
1cm程度の円礫を含む
1mm以下の褐色粒、炭化物を含む
- 10.10YR4/4 褐色シルト、しまり中、粘性強
2cm程度の円礫と10cmの円礫1点を含む
炭化物、1mm以下の褐色粒を含む

- 11.10YR4/2 灰黄褐色シルト、しまり弱、粘性強
3cm程度の円礫を含む
- 12.10YR4/3 に近い黄褐色極細粒砂、しまり中、粘性弱
1cm以下の円礫を少量含む、植物根多い
- 13.10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂、しまり中、粘性弱
炭化物、酸化鉄を微量含む、植物根多い
- 14.10YR4/4 褐色シルト、しまり中、粘性中
第16層の粒子を含む、炭化物・微細土器片を含む
- 15.10YR4/2 灰黄褐色シルト、しまり中、粘性中
1cm以下の円礫を含む
酸化鉄を多く含む、1cm程度の粒状のものも存在
- 16.10YR3/4 暗褐色極細粒砂、しまり中、粘性弱
炭化物、微細土器片を含む、10cm程度の円礫を1点含む
- 17.10YR4/4 褐色シルト、しまり中、粘性中
3cm程度の円礫を少量含む、土器片を含む
- 18.10YR2/2 黒褐色粘土、しまり中、粘性中
1cm程度の黄褐色粘土粒を含む、炭化物を微量含む

- S P 1
- 1.10YR4/3 に近い黄褐色シルト、しまり中、粘性中
3cm程度の円礫を含む
1mm以下の炭化物、褐色粒子を含む
 - 2.10YR4/2 灰黄褐色粘土、しまり弱、粘性強
第16層の5cm以下のブロックを含む
炭化物、1mm以下の褐色粒子を含む

第58図 切株撤去にかかる調査セクション図



1 ②調査前遠景（東から）



2 ②調査地近景（北から）



3 ②トレンチ南壁



4 ②トレンチ南壁（杭部分）



5 ②トレンチ北壁



6 ②土堤掘木造構造物



7 ②埋戻し後（東から）



8 ②出土土器

引用・参考文献（五十音順）

- 明科町史編纂会編 1984 「明科町史」上巻 明科町史刊行会
- 明科町教育委員会 2000 「潮神明宮前遺跡—明科町総合福祉センター建設に伴う緊急発掘調査報告書—」明科町の埋蔵文化財第8集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2005 「潮神明宮前遺跡Ⅱ—町道拡幅改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—」明科町の埋蔵文化財第13集 明科町教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2010 「平成20年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書—ハツコ遺跡・三枚橋遺跡—」安曇野市の埋蔵文化財第3集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2017 「明科遺跡群明科廃寺4—個人住宅建設に伴う第4次発掘調査報告書—」安曇野市の埋蔵文化財第12集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2018 「平成28年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書」安曇野市の埋蔵文化財第15集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2019 「潮遺跡群潮神明宮前遺跡3—安曇野市消防団第7分団第1部詰所新築工事に伴う第3次発掘調査報告書—」安曇野市の埋蔵文化財第18集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2020 「三枚橋遺跡3—店舗建設に伴う第3次発掘調査報告書—」安曇野市の埋蔵文化財第21集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2021 「明科遺跡群明科廃寺第5次発掘調査の概要」 安曇野市教育委員会
- 小平和夫 1990 「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4—松本市内その1—総論編』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書4 長野県埋蔵文化財センター pp.97-158
- 豊科町教育委員会 1992 「吉野町館跡遺跡—県営ほ場整備事業豊科南部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—」 豊科町教育委員会
- 豊科町教育委員会 1994 「鳥羽館跡遺跡—県営ほ場整備事業豊科南部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—」 豊科町教育委員会
- 三郷村誌編纂会編 1980 「三郷村誌Ⅰ」 三郷村誌編纂会
- 三郷村誌編纂委員会編 2006 「三郷村誌Ⅱ」第二巻・歴史編上 三郷村誌刊行会

調査報告書抄録

ふりがな	れいわ2ねんどあづみのしまいぞうふんかざいちょうさほうこくしょ
書名	令和2年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	安曇野市の埋蔵文化財
シリーズ番号	第24集
編著者名	土屋和章、臼居直之、中谷高志
編集機関	安曇野市教育委員会
所在地	〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地 TEL 0263-71-2000
発行年月日	西暦2022年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
明科遺跡群 県町遺跡	長野県安曇野市 明科中川手3739番3	20220	5-410	36° 21' 17"	137° 55' 46"	20200408 ～ 20200408	12	道路
等々力町 中上中下遺跡	長野県安曇野市 豊科 穂高4284番1外1筆	20220	2-35	36° 20' 29"	137° 53' 22"	20200605 ～ 20200605	17	駐車場 整備
明科遺跡群本町遺跡 ・明科遺跡群龍門淵遺跡	長野県安曇野市 明科中川手3929番4 外1筆	20220	5-414 5-412	36° 21' 22"	137° 55' 37"	20200618 ～ 20200618	11	道路
明科遺跡群 栄町遺跡	長野県安曇野市 明科中川手3727番1	20220	5-411	36° 18' 18"	137° 55' 50"	20200715 ～ 20200715	5	道路
明科遺跡群 明科庵寺	長野県安曇野市 明科中川手3531番5 外3筆	20220	5-409	36° 21' 12"	137° 55' 43"	20201125 ～ 20201214	10	道路、 個人住宅
明科遺跡群 県町遺跡	長野県安曇野市 明科中川手3749番2	20220	5-410	36° 21' 15"	137° 55' 47"	20210106 ～ 20210106	14	道路
南松原遺跡	長野県安曇野市 三郷小倉6412番1	20220	3-10	36° 14' 56"	137° 50' 48"	20210204 ～ 20210204	6	工場
湖遺跡群瀨神明宮前遺跡	長野県安曇野市 明科東川手528番6 外1筆	20220	5-501	36° 21' 34"	137° 55' 50"	20210210 ～ 20210210	5	太陽光 発電施設
湖遺跡群瀨神明宮前遺跡	長野県安曇野市 明科東川手263番1	20220	5-501	36° 33' 33"	137° 55' 48"	20210322 ～ 20210322	1	農業用 倉庫
八ツ口遺跡	長野県安曇野市 穂高柏原960番1 の一部	20220	2-56	36° 19' 41"	137° 53' 26"	20210323 ～ 20210323	46	個人住宅
三枚橋遺跡	長野県安曇野市 穂高柏原962番5 外2筆	20220	2-47	36° 19' 43"	137° 53' 27"	20210329 ～ 20210329	10	宅地造成

なだかすけたくあと 多田加助宅跡	長野県安曇野市 三郷明盛3334番2	20220	—	36° 16' 29"	137° 53' 44"	20200623 ～ 20200623	5	上水道管敷設
なだかすけたくあと 多田加助宅跡	長野県安曇野市 三郷明盛3334番2	20220	—	36° 16' 29"	137° 53' 44"	20210315 ～ 20210319	5	切株撤去

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
明科遺跡群 県町遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在せず。
等々力町 巾上巾下遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在せず。
明科遺跡群本町遺跡 ・明科遺跡群龍門淵遺跡	集落跡 祭祀跡	弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	土師器小破片	造成土と地表下40cm付近の攪乱を受けた層から土器片が出土。
明科遺跡群 栄町遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	なし	地表下70cm付近から土師器小破片1点が出土。
明科遺跡群 明科庵寺	社寺跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	ピット1	なし	地表下80cm付近からピットを検出。
明科遺跡群 県町遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在せず。
南松原遺跡	集落跡	縄文時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在せず。
潮遺跡群 潮神明宮前遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	土坑1	土師器、黒色土器A、陶器	古墳時代～中世の遺物がごく少量出土。
潮遺跡群 潮神明宮前遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	黒色土器A、須恵器	須恵器器差D等が出土。
ハツコ遺跡	集落跡	奈良時代 平安時代 中世	なし	土師器、黒色土器A、軟質須恵器、鉄鏝	平安時代の遺物が出土したが、遺構はない。
三枚橋遺跡	集落跡	弥生時代 ～ 中世	なし	なし	摩耗した微細土器片を含む土層あり。
多田加助宅跡	—	—	堀の一部	なし	長野県史跡 南端で堀の一部を検出。
多田加助宅跡	—	—	土堤	土師器	長野県史跡 土堤断面の記録作成。土師器小片1点が出土。

<p>要約</p>	<p>令和2年度に長野県安曇野市内で実施した埋蔵文化財保護措置及びこれに伴う試掘・工事立会の結果を掲載した。発掘調査等の総数は全157件で、全件にあたる157件を安曇野市教育委員会が主体となって実施した。なお、この内訳は発掘調査2件、試掘11件、工事立会88件、慎重工事56件である。また、これ以外に、長野県史跡多田加助宅跡の現状変更等にかかる調査を、2回実施した。</p> <p>試掘調査の成果は、11件を掲載した。明科遺跡群明科廃寺では、地表下80cmから、寺院に關係する可能性の高いピットを検出した。また、明科遺跡群本町遺跡・明科遺跡群龍門遺跡、潮遺跡群潮神明宮前遺跡、ハツ口遺跡では、遺物が出土したが遺構は検出できなかった。</p> <p>この他、遺物が出土した工事立会の成果を2件掲載した。追掘遺跡では、宅地造成に際し浸透柵設置箇所から須恵器破片が出土した。また、明科遺跡群本町遺跡では、個人住宅建設に際し古墳時代の土器、時期不明の短刀が出土した。</p> <p>また、長野県史跡多田加助宅跡の現状変更等にかかる調査結果も掲載した。この史跡では、令和2年度に2件の現状変更等があり、いずれも土壌の掘削を伴うものであったため、記録作成を実施した。上水道管敷設にかかる調査では、調査地南端で堀の可能性のある砂層を検出した。切株撤去にかかる調査では、土堤の掘削断面を図化した。</p>
-----------	--

安曇野市の埋蔵文化財第24集

令和2年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書

発行 令和4年(2022)3月31日
安曇野市教育委員会
〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地
電話0263-71-2000

編集 安曇野市教育委員会
印刷 電算印刷株式会社

